大隈内閣総理大臣殿

必親展

警視総監西山志澄

一 党議ニ拠テ実行セサル内閣大臣ハ実ニ政党ニ於テ相当ノ責ヲ負ハサルベカラズ然レモ如此事項ヲ大会ニ於テ決議スルハ不都

乙秘第四五七号　　十月四日

憲政党十團体ト文官任用令

文官任用令全廃論ハ憲政党十團体（高知縣大坂府ヲ除キ）何レモ意見一致シタルヲ以テ明五日憲政党本部ニ於テ全國十團体聯合委員會ヲ開キ本問題ヲ憲政党大會ニ提出シ可決ノ上ハ党議ヲ以テ内閣党員ニ其実行ヲ為サシムル事ニ協議一決シタリ

近畿倶楽部ノ協議會

昨三日ノ本部ニ於ケル近畿倶楽部ノ協議ハ明五日十團体聯合委員會ニ対スル近畿倶楽部ノ意見ヲ決定スルコトニ付テ協議シタリシカ結局左ノ通リ決シタリ

一　同志倶楽部ヨリ交渉ニ係ル根本的改革意見ニ同意ヲ表シタルニ就テハ其實行方法ハ之ヲ憲政党ノ大會ニ提出シ党議ヲ以テ内閣大臣ニ建議シ其實行ヲ期スル事

一　党議ヲ實行セサル内閣大臣ハ憲政党ニ於テ相当ノ制裁無カルベカラズ然レモ如此事項ヲ大會ニ於テ決議スルハ不都

合ニ付キ各團体ニ於テ其實行ヲ總務委員ニ建議スル事

右文書ニ認メタルモノニアラズ然レドモ大要如右

乙秘第五三三號　十月廿六日

関東倶樂部擴張遊説委托ノ件

星亨ハ府下荏原郡玉川村大字等々力豊田周作父トハ舊来ノ私交ア
リ本月十四日頃豊田方ヲ訪問シ談ニ曰ク現内閣組織已来其施政上
何等為ス處ナク現閣臣カ在野中揚言セシ處一モ遂行セズシテ荏
苒今日ニ至ル者ハ将来到底憲政ノ美ヲ擧グル事能ハズ故ニ自
派ノ團体ヲ鞏固ニシ倍々擴張シ議會ニ於テ一大勢力ヲ得サルベカ
ラズ関東派ハ自今意思ノ結合ヲ鞏固ニシ一面分離後ノ準備ヲ
為シ一面對議會策ヲ講スルノ必要アルヲ認ム云ニ
付倶樂部擴張ニ付府下各郡ハ青木正太郎ニ其遊説ヲ托シ市内ハ
中鉢美明ニ委シ着々遊説シ的ネ同意セシ趣ニテ荏原郡内ノ遊
説ハ豊田ニ委托シ同人ハ長島作太郎ニ其意ヲ傳ヘ長島ハ平林九兵
衞、谷國慶治(府會議員)等ニ遊説シタルニ彼等ハ曰ク関東倶樂部員ト
ナリ将来之レト言動ヲ共ニスル事ハ全然同意スルヲ滑スト雖トモ當
郡ノ如キハ東京府會ニ對シ勢力微弱ナルヲ以テ夫等ノ政略上郡内

國民派ニ属スルモノハ入會スルコト得策ナルヲ以テ略ホ決定シ居ル旨平林九兵衛ハ口外シ居レリ

大隈外務大臣殿

親展

警視総監山田為暄

乙秘第七八二号　八月五日

自由倶楽部ノ書面

自由党員カ松方大隈二相ニ對スル辞職勧告書ハ既ニ前記二相ヘ送付シタルカ今后ノ運動上ニ付昨日自由倶楽部ヨリ全部員ニ發送セシ書面左ノ如シ

松方大隈二相ニ対スル負責退官勧告ノ公開状ハ松田正久重岡薫五郎石塚重平鈴木重遠谷河尚忠高橋安爾等ノ名義ニテ去ル一日送付シタルカ今后ノ運動方法ハ彼レ二相ノ進退奈何ヲ觀察ノ上彼等愈ヒ責任ノ何物ナルヲ知ラサルニ於テハ松田外五氏ハ固ヨリ自由倶楽部員利光鶴松根岸貞三郎外五六ノ者又松方大隈ニ面会責任ノ何タルヲ知ラサルカ又ハ之ヲ亀視シタルカヲ詰問明答ヲナサシムル筈ニテ彼等カ面会ヲ避クル時ハ尚倶楽部

員ノ名義ニテ公開状ヲ送ルコトニ決シタリ
右了知アランコトヲ請フ
三十年八月四日夜
自由倶楽部

秘

三十一年七月七日接受機密報告抜萃

滋賀縣

一 本月二日滋賀郡大津町ニ前代議士谷澤竜藏ノ慰労会ヲ開ク出席者百三十名席上谷澤ハ第十二議会ニ於ケル重要問題ニ付報告ヲ為シ終リニ現内閣員ハ二十三年以来民間ノ情況ヲ知悉セシ者ナレハ恐ラク国民ノ不利トナルヘキ事ハナサスト信認セルヲ以テ反対セサルナリト演セリ仝人ハ次回選挙ニモ代議士タラン事ヲ欲シ酒間努メテ来会者ノ歓心ヲ迎フルモノヽ如クナリシ

福島縣

一 石城郡窪田村ヽ会議員半数改選ニ付旧進歩派旧東北仝盟派互ニ競争中ノ処去ル二日両派ノ運動者衝突シ仝盟派安島

子之吉ハ棍棒ヲ以テ進歩派長久保福太郎ヲ殴打シ軽傷ヲ負ハセタリ加害者ハ直ニ逮捕シ殴打創傷現行犯ト認メ所轄検事ニ訴告シタリ

鳥取縣

一 在大阪地價修正事務所ヨリ本縣石谷董九郎ニ宛本月十日全地ニ開ク地價修正全盟府縣大会ニ提携ノ賛否及ヒ委員上坂ノ件ヲ申越シタルヲ以テ大地主重立者協議ノ上全会ト提携スルコト大会ヘハ委員トシテ前代議士石谷傳四郎外二名出席スルコトヲ決シタル趣ナリ

一 因伯時報社長小原吉次郎外一名発起トナリ去ル三日鳥取市大工町ニ政党内閣樹立ノ祝賀会ヲ開キタリ出席者八名ニシテ当地ニ憲政党支部ヲ設置シ党勢擴張ノ実行ヲ期スル為メ假会長一名常務委員二名ヲ選定シタル由

乙秘第五一三号　十月廿日

十三州會發會式　（乙秘第四九九号参照）

本日午後三時ヨリ日本橋倶樂部ニ左記ノ者集會十三州會發會式ヲ擧
ク先ツ加藤政之助ハ起テ本會設立ノ趣旨ヲ演説セリ其要ニ曰ク九州
ニ九州倶樂部アリ東北ニ東北倶樂部アリ其他近畿北信八州ト云ヒ各
地方利害ヲ同フスルモノハ共ニ提携時事問題ニ付研究ヲ為スニ勉メ
リ本日茲ニ十三州會ノ發會式ヲ擧行スルノ意モ亦之レニ外ナラズ云
々ト夫ヨリ島田三郎ヲ議長ニ推シ會則ノ逐條審議ニ移リ例會ヲ毎日
曜ニ開クトノ項ニ至リ反対説出テタルモ結局盡ク原案ニ決シ後黒須
龍太郎淺香克孝等十三州會ノ將來ニ於ケル行動ニ關スル希望ノ演説
アリ次ニ某ハ起テ星亨近來ノ擧動ヲ非難シ同人ハ伊東巳代治ト結托
シ種々ノ方策ヲ画シ吾ガ憲政党ノ分裂ヲ試ミントスルノ状アリ將來
憲政ノ目的ヲ達スル上ニ於テ由々敷大事ナレバ此際調査委員ヲ撰ミ
事實ノ審査ヲ遂ケ果シテ説ノ如クナレハ断然タル處置ヲナシ速ニ彼
ヲ除名センコトヲ望ム云々ト述ベシモ右ハ本日ノ問題外ナルニ依リ他

日評議員選定ノ上審議スルコトニ決シ茲ニ本會ノ萬歳ヲ三呼シ一同議場ヲ退キ宴ニ移リ仝五時散會セリ

出席人名

横山富次郎　田中正造　加藤政之助　四宮有信
淺香克孝　塩入太輔　岡野寛　安田勲
堀越寛介　岩崎万次郎　横尾輝吉　杓見八郎
星松三郎　小川三千三　島田三郎　丸山名政
田口卯吉　黒須龍太郎
外九十二名

大隈内閣総理大臣殿

必親展

警視総監西山志澄

[illegible]

外新聞ニ松方伯ト大隈伯ト睽離スト言フ[illegible]松方伯[illegible]閣

ニ近寄リツヽアルモノヽ如ク掲ケアレ𪜈全然無根ノ事ニシテ全ク方

角違ヒタリ松方伯ハ斯ノ如キ薄志弱行ノ人ニアラス今更一方ノ政

乙秘第四九六號　十月十七日

園田男ノ近状

園田男ハ或人ニ語テ曰ク近刊ノ一二新聞ニ余カ非職官吏等ト聯合シ躍起運動ヲ為スモノヽ如ク記載セリ誠ニ迷惑千萬ナリ實ハ先頃或有力ナル人余ニ忠告シテ曰クヲ前ハ最早何事モ言フヘカラス既ニ警視廳官舍ニ於ケル演説ニテ所謂志士仁人ヲ鼓舞シ尊　王忠　君ノ元氣ヲ惹起シタル今日最早云フノ要ナシ此上尚ホ談論スル處アラハ他人ハ見テ以テ彼レハ懲戒免官ノ復讐的運動ヲ為スモノト認メラレ却テ我カ派ノ為メニ不利ナリト云フニアリ至極最ナル意見ニシテ余モ大ニ考フル處アリ或ハ本期ノ議会ニハ沈默ノ姿勢ヲ執ランカトモ考ヘ居レリ云々

又曰ク昨日ノ萬朝報ニ松方伯ト板垣伯ト題スル記事及昨日ノ内外新聞ニ松方伯ト大隈伯ト題スル記事ハ何レモ松方伯カ現内閣ニ近寄リツヽアルモノヽ如ク掲ケアレ圧全然無根ノ事ニシテ全ク方角違ヒタリ松方伯ハ斯ノ如キ薄志弱行ノ人ニアラス今更一方ノ政

党ト結ビ再ビ政党内閣ヲ組織スル如キ愚ヲ學ブモノニアラズ他ニ大
ニ的為スアルベシト云々

又曰ク此ノ頃ノ問題タル島尾子ノ王道辯及石川師ノ檄文ハ全然
賛成ト云フニハアラザルモ政府ガ島尾ヲ懲戒免官シ或ハ石川ヲ
直接間接ニ處分スル等ノコトアラバ（素ヨリ其処分トハ新聞ノ記事ニテ信ヲ措キ難シト雖モ）尚ホ
此上非常ノ物議ヲ惹起スニ至ルベシ彼ノ萬朝報ノ社説根本的改
革ト題スル記事スラ放任シ置キ獨リ島尾石川ノミニ嚴ナラバ
全然反對セザルヲ得ザルナリ萬朝報ノ記事ニ對シテハ實ニ忠君
愛國家ノ頗ル悲憤スル所ナリト云々

乙秘

警視総監田中[illegible]

大隈外務大臣殿

必親展

乙秘第七六〇号

在京自由党代議士懇會

七月廿五日

本日午前十時ヨリ自由党本部ニ於テ布哇事件ニ就キ在京代議士懇會ヲ開キタリ
来會者ハ松田正久両幹事在京代議士等十八名ニシテ種々議論ノ末終ニ大隈伯
ニ勧告書ヲ送リテ辞職セシムル事ニ決シタリ其委員ハ石塚重平 重岡薫五郎
鈴木充美 谷河尚忠 高橋安爾ノ四名ヲ松田政務委員ハ指名セリ尚明日ハ勧告書
ノ件ニ付右委員自由党本部ニ會合シテ立案ノ趣旨ヲ講スル筈ナリト云フ

大隈外務大臣殿

親展

警視總監山田為暄

一他ノ各大臣ヘハ何カ……

一右ノ公開書ハ財政ノ紊乱、外交ノ失策、官紀ノ腐爛ヲ主唱ノ

乙秘第七五三号　七月廿三日

自由党雑俎

一公開書ハ之ヲ松方大隈高島ノ三大臣ニ与ヘ外ノ各大臣ニハ別ニ同様ノ意味ヲ以テ是又連帯責任ヲ負フヘシトノヿヲ勧告スヘキハ自由倶楽部当初ノ意見ナリシカ昨日開会セシ同倶楽部ノ秘密会ニ於テハ右公開書ニ関シテ各自盛ンニ意見ヲ吐露シ種々議論起リシモ結局左ノ通リ議決シタリ

一公開書ハ我倶楽部カ緊急建議トシテ大会ニ提出セシ明文ニ照シ松方大隈高島ノ三大臣ニ限リ之ヲ与フルモノトス

一他ノ各大臣ヘハ何レノ勧告ヲモ為サヽルヿ

一右ノ公開書ハ財政ノ紊乱、外交ノ失策、官紀ノ腐爛ヲ土臺ノ

旨趣トシテ起草スヘキ筈ニテ其執筆ハ特ニ栗原亮一ニ依托スルコトニ決シタリ

一 実行委員ハ各府県一名ツヽト決シタリ其人物ハ各地方ノ選定ニ任スル筈ナルヲ以テ各地方ハ其適任者ヲ選ミ自由倶楽部ニ報告スヘキ筈

一 有一館員カ兎角ニ事アレカシト希望シ虚勢ヲ撲ヘ来島恒喜ノ再演ヲ出スモノハ有一館ナリ抔威張散ラスニヨリ昨日モ此事ニ付臨検ヲ出シタルコトアリシカ元来有一館員抔ハ無脳ナルニヨリ本部員ノハ自由倶楽部抔カ示威的ニ出スヘキ事柄ヲモ解セス実際的ニ解釈シをだてれバ益々昇リ声なせバ不平ヲ発シテ乱暴ヲ出ス実ニ困リ果テタルモノナリ板垣ガ開花楼ニ於テ出シタル煽動的演説以来有一館員カ往々不穏ノ挙動ヲ出スニハ困リ入シリト云

大隈内閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

協議
會事
件ニ加
流代
タリ
助
八
信

乙秘第五二六號　十月廿五日

十三洲會ニ関スル件

昨日午後一時ヨリ十三洲會事務所ニ左記ノ者集會協議ノ末同會ハ區域狭隘ナルヲ以テ更ニ東北六縣ヲ加ヘ同會事務所中ニ奉西倶楽部ナルモノヲ設ケ仮リニ工藤行幹、加藤政之助ノ両名ヲ幹事ニ挙ケタリ目的ハ舊進歩派代議士及代議員ノ集會所ニシテ既ニ其看板ヲ掲出シタリ

出席人名

門馬尚經　堀越寛介　岩崎萬次郎　関野寛

小田為綱　丸山名政　淺香克孝　佐藤里治

佐治幸平　星松三郎　加藤政之助

戸狩権之助　中島祐八　四宮有信

乙秘第五二七號　十月廿五日

同人倶樂部ノ集會

昨日午後一時ヨリ同人倶樂部ニ左記ノ者集会谷森真男ノ發議ニテ尾崎文相ノ共和政治云々ノ件及横田檢事總長處分問題並ニ鉄道國有論等ニ就キ協議シ同六時散會セリ

出席人名

石橋重賢　久保田讓　辻新次　谷森真男
安川繁成　濱口吉右エ門　児島惟謙　三浦梧樓
柴原和　吉田市十郎　中島錫胤

秘

大臣

秘書官 （印）

三十年八月三十一日接受機密報告抜萃

滋賀縣

一、衆議院議員服坂行三（自由党員）ノ談話
伊藤侯ノ帰朝ハ國運日ニ非ニシテ外交財政ニ関シ現内閣諸
公カ持テ餘シタルヨリ遂ニ仝侯ヲ召還セラレタルモノナラン
首相松方伯ハ内閣ヲ統一スル能ハサルノミナラス又刻下ノ非運
ヲ挽回スルコト能ハス実ニ進退維谷マリテ辞表ヲ上レリト思
フニ伯ハ此際専任大蔵大臣トナラルヽナラン
伊藤侯帰朝セハ再ヒ總理大臣トナリ大隈伯ハ引退セラルヽニ
至ラン今日ニ於テ伯ノ対外硬ハ未タ國力ト相容レサル所アリ」
今ヤ東洋ノ形勢ハ実ニ寒心スヘキモノアリ彼独逸カ東洋
艦隊ヲ増加シタルカ如キハ明カニ日露対朝鮮策ニ関シ日本

ヲ威壓セントスルニ外ナラス若シ彼等ト事ヲ構ヘンカ戦爭ハ六
七年間繼續スルノ決心ヲ以テ起タサルヘカラス殊ニ彼ハ仝盟軍
ナルヲ以テ我亦仝盟ヲ作ルニアラサレハ終局ノ勝利期シ難シ而シテ
大勢上我ハ遂ニ英國ト仝盟スルノ止ムヲ得サルニ至ラン
大隈伯ノ外交ハ必ス戦機ヲ早ムルナラン戦機ヲ早ムルハ我ノ得
策ニアラス其際伊藤侯ヲシテ總理兼外務大臣タラシメハ侯
ノ手腕必ス其間ニ益スル所アラン

秘

內閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

乙……

清國……

モ奔走……

金子……

松……

久……

呂……

岸……

大……

國……

古……

坂……

高木豊三

……最

等ニテ會場ハ星ケ岡ノ積リナリシモ同所ニハ土佐人會アリ面白カラ

乙秘第五〇七號　十月十九日

国民協會明日ノ集會

清國政變ニ関シ明廿日會合ノ件ニ付テハ大岡育造、牧朴眞ノ両人最モ奔走ニテ粗々當日ノ出席ヲ承諾セシモノヲ擧レハ

金子堅太郎　千家尊福　黒田長成　清浦奎吾
松平正直　安場保和　青木周藏　寺原長輝
久米民之助　朝比奈知泉　二宮熊次郎　川田正根
荒川邦藏　小早川豊次郎　松本君平　福地源一郎
岸田吟香　川崎三郎　松井廣吉　大岡力
大株戸宗重　横田國臣　平山靖彦　古澤滋
園内重俊　五十嵐光彰　新井毫　大岡育造
古莊嘉門　清水文二郎　和田彦次郎　大倉喜八郎
坂田昌熾　元田肇　牧朴眞　樺山資英
大久保利武　水野遵　高木豊三

等ニテ會場ハ星ヶ岡ノ積ナリシモ同所ニハ互信會アリ面白カラ

ストノ説出テ他ニ聞合中ナレバ今日正午迄ニハ決定ヲスベシ

乙秘第四七六號　十月十三日

某實業家ノ談

實業者ノ一派及伊東巳代治等運動ノ結果自由黨ノ一部ノ有力者市街宅地増税反對派等ト一團トナリテ地租ヲ増税シ經濟ヲ整理シ以テ實業社會ノ回復ヲ計ルト言フノ趣旨ニテ同志專ラ運動シ居ルヲ防カンカ為メ松田藏相ハ日本銀行ヲシテ金利引下ケヲ決行セシメシモ此ノ如キ姑息ノ政策ニテハ到底一瀉千里ノ潮勢ヲ遏止スルノ勢ヲ失セス第十三議會開會セラルヽニ於テハ政海ニ一大波動ヲ起スヲ免レサルヘク亦株式ノ如キモ日本銀行利子引下ケノ内部ヲ窺知リタレハ未タ之カ為メ金融ヲ回復スルコトハ到底望ムヘカラスト云々

警視總監西山志澄

大隈内閣總理大臣殿

必親展

乙秘第四七五號　　十月十二日

國民協會院外者

一昨日喜多川樓會合ノ結果トシテ昨日午後一時ヨリ酒井、栗谷ノ貳名牧朴眞ノ邸ニ會合發企人トスルニ足ルベキ人名上下両院議員實業者等ヲ合シ凡ソ百八十餘名ヲ得兼テ喜多川樓ニ會合シタル人々本日國民協會ニ集會スル約アルヲ以テ其ノ同意ヲ得タル上ハ各其部署ヲ定メ承諾ヲ求ムル筈ナリ

牧ノ語ル所ニヨレハ現内閣設立以来免官トナリタル高等官百五十餘名ノ懇親會ヲ相開キ席上團体組織ノ計畫ヲ說キ加勢セシムル手筈ニテ夫々實地ニ着手シツヽアリト

火號

秘

左記之通探聞候ニ付及内申候也

明治三十年一月三十日　警視総監山田為暄

大隈外務大臣殿

乙秘第一五五号

本日ノ代議士総会

本日自由党ハ豫算ニ付代議士総会ヲ開キタリ外務省主管布哇公使館設置費ハ外務大臣カ責任ヲ以テ布哇ニ公使ヲ派遣スルハ布米合併ヲ防遏スルノ手段ヲ尽スニ充分余地アリトノ言質ヲ取リ若シ之ニ反シ其ノ言責ヲ完フセサルカ如キ事アラハ宜シク其ノ責ヲ引カシムルト云フ迄ノ問答ヲナシ外務大臣カ右ノ如ク責任ヲ以テ答弁スル以上ハ協賛ヲ与フル事ニ決シタリ之カタメ実ニ数時間ヲ費シタリ其ノ他豫算ニ係ル事ハ議会ノ模様正敗ヲ期スルモ無理ニ党論ヲ執着スルハ益ナシ故ニ正当ノ理由ナク又正敗ト認ムヘキモノハ

隨時隊募委員ニ一任スルコトヲモ亦併セテ議決シタリ

大隈總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

子爵ニ對シテハ田

又其交渉ノ任ニ当リ居ルハ星派ニ對シテハ元田肇島田田口等ニ對シ

テハ元田及ヒ和田彦次郎ニシテ高島子ニ對シテハ曽根荒助ナリト云

乙秘第四三三號　九月二十三日

新政党組織ニ就テ

金子堅太郎曽根荒助等カ国民協會ヲ中堅トシ新タニ政党ヲ組織シ憲政党ニ当ラントノ計画ニ付過日日本倶楽部ニ於テ叶議セシコトハ先キニ報告スル処アリシカ尚ホ其后ノ模様ヲ聞クニ今直クニ之ヲ発表スルハ徒ラニ憲政党ノ内部ヲ鞏固ニシ其分離ノ期ヲ晩カラシムルニ止マリ毫モ益スル処ナシ今暫ラク之レカ発表ヲ見合セ一面憲政党ノ分離ヲ図リ一面星亨ノ一派及ヒ島田三郎、田口卯吉等ノ一派ニ或ル條件ノ下ニ於テ(星ニ對シテハ議長問題島田、田口等ニ對シテハ増税問題等)交渉シ両派ノ内何レカ一派ヲ吸収合同セシムルニ勉メ其機ノ熟スルヲ待ツテ国民協会ヲ解党シ之レト全時ニ愛民党ト称スル新政党ヲ組織スルコトニ略々内決シ居リ目下秘密ニ夫々交渉シツヽアリ且ツ高島子爵ニ對シテハ既ニ去ル十九日ニ在ツテ合同ノ事ニ交渉纏リタル由又其交渉ノ任ニ当リ居ルハ星派ニ對シテハ元田肇、島田、田口等ニ對シテハ元田及ヒ和田彦次郎ニシテ高島子ニ對シテハ曽根荒助ナリト云

フ

而シテ国民協会カ星ニ對シテ此ノ交渉ヲ為スニ至リタルハ星ガ現内閣ヲ喜バザルト又仝人カ衆議院ノ議長タラントノ意切ナルモ自由派ハ伊閣ニ對スル情義上仝人ヲ推サントスルノ傾キアリ進歩派亦従来ノ行懸ニ於テ星ヲ議長ト為スヲ喜バザルノ状アリ星ニシテ而モ尚ホ議長ヲ争ハント欲セバ勢ヒ他派ノ援助ヲ乞ハザルベカラズ星ノ未タ憲政党ニ入ラザルハ抑モ之レカ為メナラントノ推断ヲ為シ茲ニ交渉ヲ為スニ至リタルモノナリト云フ

乙秘第五二八號　十月廿五日

自由派青年大懇親會準備會委員會合

本日午前十時ヨリ京橋区新肴町貸席開花亭ニ自由派青年大懇親会準備委員會合セシモノ

伊藤仁太郎　比留間邦之助　佐久間傳太郎　志村友吉

外　二名

ニシテ右大懇親会ヲ開催スルニ付其ノ準備ニ関シ協議ヲナシ左ノ通決定ス

一　開場　神田錦輝館

一　日時　来廿九日午後一時ヨリ開ク事

一　準備ニ関スル事務

京橋区新肴町貸席開花亭ヲ三日間借受ケ後事務所ニ充ツル事

一　全国自由各新聞社ニ通知ノ事

一　出京各代議士ニ招待状ヲ発スル事

一　明日ヨリ向フ三日間廣告社ニ托シ開会ノ廣告ヲやまと、京華人

民内外其他ノ新聞ニ掲載ノ事

一 當日會場ニ於テ準備ニ関スル一切ヲ廣告社ニ托シ音樂隊ヲ余興ニ午後二時ヨリ四時迄雇入ル丶事

一 中外通信社員ヲ招キ別室ニ於テ佐久間傳太郎面会ノ上其旨趣談話ス

要領

本會ヲ開催スベキ表面的ノ旨趣ハ單ニ自由派各青年ノ旧交ヲ温ムルニ過キズト雖裏面的ニハ進歩革新ノ両党等ニ對シ示威的ノ意味モ含ミ居リテ其目的ハ板垣、松田、林等ノ諸大臣カ更始一新ノ實ヲ擧ゲ又ハ文官任用令全廢ノ事、内閣ハ均衡ノ事ニ関シ其行為ノ緩慢ナルヲ正シ其速リヲ計ラシメントスルニアリ 故ニ當日ハ右等ニ関シ決議ヲナス事モアラン云々

前項中廣告社ニ関スル事ハ其社員ヲ招キ既ニ委托シ全國各新聞社ヘ郵書ヲ發シタリ

乙秘第五三七號　十月廿七日

憲政黨三多摩支部大會

一昨廿五日午後二時三十分ヨリ憲政党三多摩支部大會ヲ八王子町蟠龍館ニ開キ會スルモノ評議員及重立タルモノ四十二名山口重兵衛ヲ座長ニ推シ憲政党大会ニ提出スル問題ニ付會議ヲ開キ左ノ数件満場一致ヲ以テ議決セリ

一　中央及地方ノ官吏ハ總テ藩閥的異分子ヲ淘汰シ根本的改革ヲ以テ更始一新ノ實ヲ擧クル事

一　文官任用令ヲ全廢スル事

一　黨閥情實ノ弊ヲ去リ有為ノ人材ヲ擧クル事

一　其他ノ件ハ代議士及前代議士代議員ニ一任スル事

次テ又藤井末一郎ヨリ本月廿四日決議セシ三多摩郡青年会組織ノ件承認ヲ求ムル旨ヲ述ヘ満場同意セリ

次キニ憲政党大會ニ三多摩支部ヨリ代議員ヲ出席セシムルコトニ付協議スル處アリ當初ニ三多摩郡ニ支部ヲ設立スル際本部ニ照会シ本部員伊

藤大八ハ之ヲ承認セリ然ルニ支部ヲ設立スルハ一府縣一ケ所ニ限ルコトノ規定
ナルニ不拘本部支部設立後東京支部ヲ設立セリ為メニ過般伊藤大
八ヨリ之ヲ以テ支部ヨリ代議員ヲ本部大会ニ出席セシムルハ規定ニ違
背スルヲ以テ出席セサル様通知シ来リタルモ當支部ハ本部ノ承認ヲ
經テ設立シタルモノナレハ規定ニ違背スルモ代議員ヲ出席シ能ハサルノ理
由ナシトノ議論沸騰シ本日支部代議員村野常右エ門一名出席シ
比留間舛之助砂川憲三ハ欠席セシヲ以テ書面ヲ發シ更ニ相談会ヲ
開クコトトシ同午後五時無事散會セリ

内務大臣伯爵板垣退助

内務省用

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

急 必親展

秘

一 総選挙候補者ノ選定ノ

検束スルヲ不可トス

一 我党ノ進路ヲ阻害スル行政官吏ヲ陶汰シ行政刷新

秘

三十一年七月十五日接受機密報告抜萃

大阪府

一 地價修正委員会ハ去ル十一日開会ノ筈ナリシカ既ニ帰縣シタル者多キ為メ一先ツ延期シ各府縣ニ於テ来ル二十日迄ニ委員ヲ定メテ本部ニ通牒シ本部ハ更ニ期日ヲ定メテ開会スル事ニナリシト云フ

兵庫縣

一 縣下一部ノ憲政党ハ憲政党青年会ト称スル團体ヲ設置シ左ノ事項ヲ決議シタリ

一 総選挙候補者ノ選定ハ党議ヲ以テ選挙區ノ意思ヲ検束スルヲ不可トス

一 我党ノ進路ヲ阻害スル行政官吏ヲ陶汰シ行政

新

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

内務大臣伯爵板垣退助

又、親展

新更革ヲ期スルノ目的ヲ以テ本会ヨリ二名ノ委員ヲ派シ本部ニ謀議セシム

右委員ニ青田朝太郎山口幸三郎ノ二名ヲ推選シ不日出発スル由本会設置ノ原因ハ前代議士ヲ再選スル本部ノ党議及ヒ本縣支部カ是ヲ是認シタルニ慊焉タラサルノ結果ニアル如ク自然支部ノ意見ト相容レサルヨリ互ニ反目スルノ状況アリト云フ

埼玉縣

一 本月十二日北足立郡吹上村ニ第四区旧進歩派候補者選定ニ関スル集会ヲ開ク出席者二十余名堀越寛介ハ憲政党組織以来ノ来歴ヲ述ヘ終テ宴会ニ移リ重立者ハ堀越ヲ候補者ニ推サントシ其諾否ヲ向ヒタルニ堀越ハ不日台湾民政局長若クハ其他高等官ニ見込ミアルヲ以テ即答為シ難シト答ヘタリト

又仝日忍町正義館ニ湯本義憲其他国民派重立者集会シ我党ハ旧自由派ト交渉セサルコト候補者ハ前代議士小澤愛次郎ヲ推スコト但憲政党候補者ノ状況ニヨリ我党ハ二名ヲ出スコト其他運動方針等ノ協議ヲ為セリ

富山縣

一 本月九日富山市ニ憲政党富山支部発会式ヲ挙行ス来会者二百三十余名田村惟昌会長トナリ支部規約ヲ確定シ評議員三十六名ヲ指名セリ又富山縣自由党青年弟ニ青年急進党富山支部ヲ合仝シ更ニ青年仝志倶楽部ヲ設立スト事項ヲ可決シテ懇親会ヲ開キ評議員ハ別室ニ於テ幹事四名ヲ選

挙シテ之ヲ報告シ無事閉会セリ

福島縣

一本月十日福島町ニ憲政党福島支部ノ発会式ヲ挙行ス来会者ハ旧進歩派及東北公盟会派凡ソ三百二十余名安部井磐根会長トナリ支部規則ヲ可決シ幹事八名評議員四十六名ヲ定メ夫ヨリ河野廣中ハ政党内閣ノ組織成リシハ国家ノ慶事ナリトノ事ヨリ吾憲政党ハ天下唯一ノ大党ニシテ反対党派ナク極メテ優勢ヲ占ム然レトモ反対党ナシトテ毫モ油断ナク共同一致該政党内閣ヲ永ク擁護スヘシ云々ト演説シ了テ懇親会ヲ開キ無事散会シタリ

廣島縣

一本月十日旧自由進歩両党重立者集会シ現在ノ自由党支部ヲ其侭憲政党支部ノ名称ニ更ムルコト来ル十七日発会式ヲ挙行シ引続キ懇親会ヲ催スコト前代議士其他知名ノ士ヲ誘導シ発起人ト為スコト憲政党本部ニ対シ弁士派出ヲ求メ大演説会ヲ開クコト等ヲ協議決定シ尚ホ総選挙候補者ニ一區藤田高之、串本康三、二區小田貫一、三區金尾稜巌、四區森田卓尓、五區藤田菊太郎土肥積ノ内一人、六區山蔭静夫、七區松井将壮、八區石井美太郎、九區山内吉郎兵エヲ推選スルコトニ決定シタリト云フ

香川縣

一自由党香川支部ハ合仝問題ニ一時反対ナリシモ一般ノ大勢合仝ノ已ムヘカラサルヲ察知シ協議ノ上遂ニ自由党支部ヲ解散シ更ニ憲政党支部ヲ設置スル事ニ決シ其旨旧進歩党重立者

ヘ交渉シタルニ進歩党員ハ合分ハ異議ナシト雖モ憲政党支部ノ設置ハ必要ナシトテ之ニ應セス今尚交渉中ナリ盖シ本縣ハ進歩党少数ナルヲ以テ一朝支部ヲ設立スルトキハ役員等ハ旧自由党員ニ占メラレ一ニ其指呼ニ従ハサルヲ得サルノ境遇ニ陥ラントスルニ職由スルモノヽ如シ

大隈総理大臣殿

必親展

警視総監西山志澄

[illegible]趣旨ヲ述ヘタリ

憲政党組織以来根本的改革ニ就テ我々同志倶楽部員ハ総務

乙秘第四四六号　　九月三十日

憲政党全國各團体連合會

本日午後二時ヨリ築地壹丁目柳花苑ニ

奥野市次郎　山田東次　石塚重平　門脇重雄
田村順之助　磯田和蔵　平岡万次郎　稲垣示
野澤雞一　小畑岩次郎　朝倉外茂鐵　中村克昌
岩崎一高　森肇　瀧口帰一　真鍋亀太郎
佐藤琢治　髙橋秀臣　廣岡宇一郎　円城寺清
千田軍之助　渡辺勘十郎　村野常右衛門　本城安次郎
川口某　石黒某　村松某　天野某
青田某　佐藤某　遊佐某　熊倉某
堀内某　村松某　川村某

ノ三拾五名追々集合午後四時二十分頃一同着席スルヤ奥野市次郎起テ開會ノ趣旨ヲ述ブ曰ク

憲政党組織以来根本的改革ニ就テ我々同志倶楽部員ハ總務

大隈総理大臣殿

委員ニ向テ意見ヲ述ベ又各大臣ニ向テ建言セシモ我々ノ意
見ハ未ダ充分貫徹スルニ至ラズ若シ今日ノ状ニ経過スル時
ハ勢ヒ各大臣及総務委員ホト相反目スルヤモ知レズ而シテ
各團体員ノ意見ヲ聞クニ略同一ナルニヨリ今後益々一致協
力ニ根本的改革ヲ為シ更始一新ノ實ヲ速カニ擧ゲンヿヲ欲
ス依テ其方法ニ付キ此席上ニ於テ直ニ協議センヿヲ希望シ
ト述ベ同志倶楽部ノ石塚重平ヲ指名シ座長ノ席ニ就カシメ會
議ヲ開キタルニ或ハ同志倶楽部ガ天下ニ宣言セシカ如ク根本
的革新ヲナスコト、セン或ハ根本的革新ト撰リニ宣言スルモ
只内閣大臣ヲ苦マシメ憲政党ノ不面目ヲ来スノミナレバ只文
官任用令ヲ全廃シ陸海軍大臣ニ至ルマデ党員ヲ擧用セザルベ
カラズ或ハ此席上ニ於テ運動方法ノ原案ヲ作成シ協議スルヿ
トセントノ諸説出テシガ結局各團体ヨリ二名ヅヽノ委員ヲ選
ビ来月五日ヲ以テ憲政党本部ニ再會シ原案ヲ起草シ更ニ協議
ヲ遂クルヿニ一決シ午後五時ヨリ酒宴ニ移リ同七時一同散會
セリ

能はざるべきなり。是れ吾同志倶楽部が中央及地方の官吏に総て……

を決せし所以なり。

警視廳

警視總監西山志澄

更始一新は吾黨の標榜なり、故に吾黨內閣の成るや、天下擧りて速かに其の實を見んことを翹望す。吾同志倶樂部も初めより此に憂慮する所あり、先きに臨時總會に於て

一　根本的改革を施し更始一新の實を擧くる事

その決議を爲し委員を擧けて其の趣旨を內閣大臣及吾黨總務委員に通し、後ち更に總會を開きて

一　中央及地方の官吏は總て藩閥的異分子を淘汰する事

一　黨閥情實の弊を去り有爲の人材を擧くる事

との二項を議決し委員をして普く內閣大臣を歷訪して其の意の在る所を諗けしめたり。

盖し政の要は人にあり、其の人存すれば其の政擧り、其の人亡ければ其の政癈る。殊に三十年來藩閥專權の下に朋黨比附し其の人を用ゆる、一に情實夤緣を以てしたる舊政府を打破し、新たに政黨內閣の端を啓かんとするに於て斷然其の人を新たにするにあらざれば則ち其の政を新たにする能はざるべきなり。世或は政務官、事務官の區別を云爲し、苟くも長上に立つの政務官にして統率駕御其の宜を得ば庶政自から其の治績を奏するを得べく、區々たる事務官のごとき、固より以て憂と爲すに足らざるべきを說くものあり。然れども是れ素と實際を知らざるもののみ、彼の藩閥の根礎は今や漸く壞頹に歸したるがごときも、曾て之に比附せる屬僚は相呼應して一種の吏閥を作成し、曩日の政變に際會するに及んで益〻密に其の結合を固くし、苟くも釁隙の乘すべきあれば直ちに反旗を飜へして藩閥政府の舊態に復せんことを努めつゝあるは掩ふべからざるの事實なりとす。之を實戰に譬ふ、新內閣は恰かも敵の士卒を指揮して軍陣に臨むものゝ如し、一敗地に委し復た起つ能はざるに至るなくんば盖し幸のみ。彼の改革、革新の今日に至るまで未た其の實を擧くるを得ざるもの、亦何んぞ怪むに足らんや。之を要するに、政は人に依りて擧る、三十年來の藩閥政府を打破して更始一新の實を擧けんとするもの、先つ上下大小の吏僚を一掃して其の人を新たにするにあらずんば到底其の目的を貫徹する能はざるべきなり。是れ吾同志倶樂部が「中央及地方の官吏は總て藩閥的異分子を淘汰する事」との議を決せし所以なり。

上下大小の吏僚を一掃せざるべからざるは則ち斯くの如し、然れども之に代ゆるに有爲の人材を以てせず、或は舊派の權衡を計り、或は地方の均等を唱え、甚たしきは朋黨互に比附して所謂獵官に狂奔するがごときことあれば則ち是れ藩閥に代ゆるに黨閥を以てし、情實に代ゆるに情實を以てするもの、新内閣の面目果して何處にかある。想ふ、政治家の要は其の地位を得て其の抱負を行ふに在り、吾黨年來の志望漸く達して政黨内閣成立したるに際し、同志の諸士が其の地位を得て其の抱負を行はんと欲するもの、固より怪むに足らずと雖も、彼の才疎器小、其の人にあらずして徒らに高官榮位を望み、以て自家一身の私を成さんとするがごときは斷して深く之を戒めざるべからず。然らざれば舊政府を仆して新内閣を立つるの目的全く喪失し、爲めに天下の民心永く吾黨を去り、政界の機勢更に逆行して彼の藩閥頑冥の奴輩をして再たひ其の跋扈跳梁を逞くせしむるに至らむ、果して然らば天下の憾事何物か之に過きんや。是れ吾同志倶樂部が「黨閥情實の弊を去り有爲の人材を擧くる事」との議を決せし所以なり。

之を要するに更始一新は吾黨の標榜なり、根本的改革は吾黨の目的なり、苟くも之を實行せざれば則ち吾黨成立の精神亡ぶ。吾同志倶樂部夙に此に憂慮する所あり、已に一再其の實行を促かせしも、不幸未た其の効を奏するに至らず、則ち玆に所信の一端を宣明して廣く天下同志の士に訴ふ、幸に其の翼賛に依りて夙志を遂くるを得ば惟り吾同志倶樂部の光榮たるに止まらんや。

明治三十一年九月

同志倶樂部

明治三十一年九月九日印刷
明治三十一年九月十四日發行

東京牛込區市ヶ谷田町二丁目三十番地寄留
佐賀縣平民
發行兼印刷人　園城寺清

東京芝區琴平町七番地寄留
三重縣士族
編輯人　川村瞱

東京市麴町區内幸町一丁目五番地
印刷所　惠愛堂

大隈総理大臣殿

親展

西山警視総監

乙 [illegible]

昨世一日午後五時頃ヨリ紅葉館ニ松田正久外左記七名會合シ藤金作

ハ本日同志茲ニ會合ナシタルハ[illegible]党合同成リ内閣組織ヲ為シタル

今日種々中傷離間アリテ為メニ幾分カ動カサルルカ如キ遺憾ナキ能

ハザルヲ以テ九州同志者ハ憲政党ノ為メニ一致ノ運動ヲ[illegible]ヲ計

ラザル可カラザルカ故ニ九州ハ憲政党ノ為メ一致シテ他ノ模範ナル

ノ礎ヲ立テサル可カラズ就テハ今後ハ各自所ニ集會シ互ニ[illegible]膜ヲ

陸 意見ヲ吐露シ是非共ニ議會開會前ニハ憲政党ノ大勢ヲ確定セ

サ[illegible]カラズト云フ[illegible]楠本ハ之ニ答ヘテ曰ク余ハ[illegible]ルモ

旦[illegible]同党ニ在リ[illegible]團体トカ

紋[illegible]スル[illegible]避ケテ今

后[illegible]政党ト云フノ意志ヲ以テ正義ヲ[illegible]モノナ

リ[illegible]同志者ト称シテ憲政党ノ中[illegible]党ノ為メ

ニ[illegible]基礎ヲ[illegible]ハ尤モ同意スル処ニシテ

乙秘第三八四號

松田正久外七名會合　九月一日

昨卅一日午後五時頃ヨリ紅葉舘ニ松田正久外左記七名會合シ藤金作ハ本日同志茲ニ會合ナシタルハ憲政党合同成リ内閣組織ヲ為シタルハ今日種々中傷離間アリテ為メニ幾分カ動カサヽルカ如キ遺憾ナキ能ハサルヲ以テ九州同志者ハ憲政党ノ為メニ一致ノ運動飽迄鞏固ヲ計ラガル可カラサルカ故ニ九刕ハ憲政党ノ為メ一致シテ他ノ摸範トナルノ基礎ヲ立テサル可カラズ就テハ今後ハ各自所ニ集會シ互ニ胸襟ヲ啓ラキ意見ヲ吐露シ是非共ニ議會開會前ニハ憲政党ノ大勢ヲ確定セサル可カラズ云々楠本ハ之ニ答ヘテ曰ク余ハ最モ之レニ賛成ナルモ是迄ノ如ク同党ニ在リナガラ関東派トカ中國團体トカ九刕團体トカ称シ割據スルハ反ヘテ党ノ分裂ヲ促ス者ナレバ可成之レハ避ケテ今后ハ憲政党ト云フノ意志ヲ以テ正意ヲ尽サレンヿヲ希望スルモノナリ併シ今回我カ九刕同志者ト称シテ憲政党ノ中心トナリテ党ノ為メニ種々ナル非難ヲ排斥シテ基礎ヲ立ツルヿハ尤モ同意スル処ニシテ

大隈総理大臣殿

必親展

仮令現内閣ガ倒レルモ余等憲政党員ニ於テ代ツテ内閣ヲ組織スルヿトスベシ不幸憲政党内ニ内訌起リテ分離スルノ場合アルモ飽迄我々レハ憲政党ヲ維持セサルヘカラス云々長谷場ハ楠本ノ説ニハ至極同意ナルガ既ニ我縣地ノ支部モ憲政党ヲ飽ク迄維持スルヿニ協議ナシタル趣キ昨日通知アリタルガ此際ハ種々ナル中傷策ヲ講シテ分離セントスルモノアルヲ以テ斯ル中傷ノ為メニ動カサランヿヲ希望スルナリ彼ノ山田司法次官ノ如キハ政畧上尤モ在リ勝チノ事ナルニ拘ハラス種々中傷ノ為メニ内閣員ガ互ヒ軋轢ヲナス如キハ実ニ余等ノ取ラサル所ナリ松田ハ我同志ガ互ニ提携シテ憲政内閣ノ鞏固ヲ謀ラルヽハ最モ希望スル所ナリ又已レガ為メニ種々ナル非難アルモ閣員トシテハ大隈ノ意見ナリ板垣ノ意見ナリ其良否ニ因ツテ賛成ナサヽル可カラズ山田事件ノ如キハ最初ヨリ種々ナル議論アリタルモ板垣ノ意見ヲ至當ニ認メタルヲ以テ賛成シタルニアリ茲ニ諸君ニ依頼スルヿハ議會開會ニ至ラハ我党員二百六十五名ハ本部ニ集合スルヿトナシ何レモ一致ノ運動ヲナシタシ而シテ議場ニ於テ妄リニ議論スルヿヲ

止メテ何レモ沈黙シテ同意スルヿニナシタシ云ヒテ、将来ノ運動
上ニ就キテハ各自ノ邸宅ニ會合シテ種々協議スルヿニナシ来月三日
ハ松田邸ニ集會スルヿニ決定シテ酒宴ニ移リ同十時散會シタリ

出席人名

松田正久　楠本正隆　長谷場純孝　野田卯太郎　藤金作

多田作兵衛　志波三九郎　田中賢道

乙秘第四一五号　九月十五日

京橋區有志懇親會

本日午后一時ヨリ築地柳花苑ニ京橋区有志者懇親会ヲ開ク出
席者三百四拾三名福地源一郎発起人総代トシテ開会ノ趣旨ヲ
述ベテ曰ク

発起人及ヒ本会列席ノ諸君ハ皆ナ公民権ヲ有スルモノニシテ
府及ヒ区ノ公共事業ニ付権利ヲ行フニ当テハ各自信スル処
ヲ遂行シ仮リニモ他ノ掣肘ヲ受クベカラズ彼ノ衆議院議員若
クハ府会議員等ノ選挙ニ際シ其自信ヲ遂行スルノ上ヨリ
或ハ親戚朋友モ互ニ相反スルノ挙ニ出ツルヿモアラン然レ
氏選挙ノ后迄モ之レカ為メ相反目スル如キハ甚タ不可ナリ
彼ノ相撲ニ例セバ出俵ノ上ニ於テ互ニ勝負ヲ争フモ后勝敗
ノ決シ其居室ニ相見ユルノ時ハ互ニ融和シテ更ニ当時ヲ思
トセザルニアラズヤ諸君ト我々ハ智能学識遥カニ彼等相撲
ノ上位ニアラン然ルニ過去ノ悪感情ヲ一掃スルヿ能ハズト

セバ彼レ相撲輩ニ恥ツルヿナキカ本会ハ是非トモ永續ヲ希ヒ年々二回位ツヽ会合シ益々交情ヲ厚フセラレンヿ希望ニ堪ヘズ云々

次ニ林茂雄ハ前記縞地ト大同小異ノ演説ヲ為シ伊藤仁太郎ハ今回ノ京橋事件ニ對シテハ只正義ノ為メニ諸君ニ賛同セシ次第ニテ京橋区民ニアラズシテ本夜茲ニ出席スルモ亦之レカ為メナリ云々ト述ベ奥野市次郎ハ亦縞地ニ均シキ辞ヲ述ベ瀬脇寿雄ハ山田喜之助ノ非行ヲ責メ是非トモ山田ヲシテ衆議院議員ヲ辞サシメント辨ジ岩谷松平ハ候補者トナリテ諸君ヲ煩ハシタルヲ謝スルトノ挨拶ヲ為シタリ以上ノ演説終リ宴ヲ開キ歓ヲ尽シテ午后八時一同退散セリ

秘　地

外務大臣伯爵大隈重信殿

必親展

上
ア

内務大臣伯爵樺山資紀

内務省用

松校
狂ノ
行為

地秘

廿九年十一月廿一日接受機密電報

埼玉縣

縣下入間郡坂戸村小学校雇教員沼江庸松校
内ニ安置シアル両陛下ノ御尊影ニ對シ酒狂ノ
上不敬ヲ加ヘ御尊影ノ硝子ヲ破壊シ暴行ノ行為
アリ今取調中

十一月廿一日午前九時五十四分発

秘　地

本紙ニ列挙スル各原書ハ警保局ニ保存シアルヲ以テ特ニ其閲覧ヲ要セラルヽ件ハ仝局長ヘ御照会アリタシ

廿九年十一月廿一日接受機密報告抜萃

愛知縣

一自由党員石塚重平ハ去ル十六日来縣シ同党重立者ニ為シタル談話ノ要ハ我党ハ第十議会ニ於テ新内閣ニ対シ極力反対セントスルモ如何セン松方内閣ハ如才ナク万事前内閣ノ方針ニ依リ施政セントシ居レバ其結果ヲ見サル内ニ濫リニ攻撃スル時ハ我党却テ天下ノ信用ヲ失墜セン故ニ此際餘リ攻撃ヲ為サス議会開会中好材料ヲ得ハ大ニ攻撃ヲ加ヘントノ意見ナリ然ルニ板垣伯ハ開会劈頭内

閣不信任ノ決議ヲ為サントノ意見ナルモ吾々始メ政務委員ハ反対ナレハ之ヲ制止セシ考ナリ云々、伊藤侯ハ山縣侯ヲ訪問シテ現内閣ハ永續セサルト信スルトテ次ノ内閣組織ニ付テ語リ合セシコトアリ、板垣伯ハ松隈内閣仆レタル上ハ伊藤ト共ニ組織セシ又今回薩長ノ関係破裂セシハ國家ノ為メ賀スヘキナリト語リ居レリ云々、内閣政綱ニ対シ地方官カ容会シテ反抗セヨト協議シタルハ事実相違セリ右ハ議会解散トナリ選挙干渉ノ訓令アルモ其命ニ服セスト決シタルナリ内閣モ容易ニ解散スルコトナカラン、各省ノ現在官吏中政府委員タラモ人々ハ松方内閣ヲ喜ハスシテ自由党内閣ヲ希望スルモノ多シ園田男等ノ如キハ好大臣ヲ得タリトテ板垣伯ヲ喜ヒ居タリ、三崎ハ開会前辞職スルコトニ決シ知事ハ其儘ニ為シ置ト星ハ自ラ辞表ヲ出サス又本部モ格別勧誘セス又議長ハ失敗ノ覚悟ニテ河野ヲ推スニ内決セリ

大坂府

一本月十七日北區網島鮒宇楼ニ自由党大坂支部秋期総会ヲ開ク出席者三十六名先ツ半期間事務并計算ヲ報告シ次ニ役員ノ選挙ヲ行ヒ幹事ニ菊池侃二外二名常議員ニ伊藤徳三外五十九名代議員ニ森秀次外三名当選シ終テ宴会ニ移リ日野國明菊池侃二秋冨儀一等ノ席上演説アリテ無事散会セリ本会ノ出席者僅々ナリシハ

自由党カ政府ト反対ナルヨリ利ニ欲キ付下ノ人氣一
時ニ冷却シタルモノナラントテ重立者ハ頗ル憤慨セリ

愛媛縣

一自由党四國大会ハ種々ナル事情ノ為メ延期シ居
リシカ愈来ル廿五日松山ニ開クコト、ナリ右ニ付去ル
十六日自由党愛媛支部常議員会ヲ開キ大会ノ
豫算及関西大会ヘ出席セル各縣ノ有力者ヲ可
成多数ニ連レ帰ルコト来ル二十日ヨリ通常縣会開
会ニ付来松スル議員ニ対シ可成多数出席方ヲ誘
導スルコト等ヲ議決シ尚関西大会ヘ吉田唯光外七
名出席スルコトニ内決セシト云フ

高知縣

一本月十三日土陽新聞社楼上ニ土佐青年会ヲ開
ク参会者凡ソ五十名会則及関西四國自由党
大会ヘ代表者ヲ出スコト高知支部ヲ新築スルコト等
ヲ議決シ夫ヨリ懇親会ヲ開キ異状ナク散会セリ又
同十四日仝所ニ自由党高知支部大会ヲ開ク来会
者六十四名先ツ役員ノ改選ヲ行ヒ次ニ関西大会
ヘ出席者二名ヲ出スコト議会開会ニ先チ代議員一
名ヲ出スコト青年会ノ建議ニ係ル関西四國大会ヘ
代表者出席ノ件高知支部ヲ新築スルコト等ヲ問
題トシ議事ヲ開キシカ青年会建議ノ代表者出席
及支部新築ノ件ハ確定ニ至ラス他ハ議題ノ通リ決シ
夫ヨリ鏡水楼ニ宴会ヲ開キ無事散会セリ

秘

三十一年七月十六日接受機密報告抜萃

千葉縣

一 本月十三日千葉町ニ旧自由進歩両党大懇親会ヲ開ク来会者二百八十余名大塚常次郎開会ノ趣旨ヨリ憲政党支部ヲ設置セント述ヘシニ満場同意ヲ表セシヲ以テ高梨正助座長トナリ両党合同シテ憲政党ニ加入スルコト支部ヲ設置スルコト等ヲ可決シ休憩後幹事四名評議員二十四名ノ選挙ヲ行ヒ了テ来賓島田三郎志波三九郎奥野市次郎鳩山和夫等ノ演説アリ夫ヨリ開宴シ無事解散セリ

兵庫縣

一 本月十二日憲政党支部評議員会ヲ開ク議題ハ代議士候補者選定ニ関スル件支部経費ノ収支方法ニ関スル件ノ豫定ナリシ

モ前代議士再選ヲ喜ハサル青年会ノ設置アリシヲ聞キ今陽ニ之ヲ決議スルハ徒ラニ青年会ノ激昂ヲ買フニ過キサルヲ以テ単ニ経費ノ収支方法ノミヲ議了シ引続キ懇親会ヲ開キ幹事魚住逸次ハ青年会員ニ対シ青年会ノ決議事項ハ支部ノ仝意スル処ナリト述ヘ青年会幹事青田朝太郎ハ支部ニ反対スルノ意思ナキノミナラス支部ヲ援助シ益〻党勢ノ擴張ニカムヘキ旨ヲ答ヘ静穏ノ間ニ散会セリ

京都府

一 上京區選出府会議員入江太兵エハ入江徳三郎ノ両人ハ曩ニ選挙罰則ニ觸レ各重禁錮二月ニ処セラレ資格消滅シ又下京區選出仝議員吉村太助ハ辞職シタルヲ以テ各補欠選挙ヲ行ヒタルニ何レモ競争ナク無事結了シ上京區旧進歩派入江太兵エ仝入江徳三郎下京區中立派大原政盛当選シタリ

奈良縣

一 高市郡選出縣会議員恒岡新次辞職ニ付其補欠ニ旧自由派松田利一郎当選セリ

埼玉縣

一 第四區旧自由国民両派候補者ニ関スル交渉ハ遂ニ破レ両派各自候補者ヲ選定スルコト、為リ国民派ハ来ル二十日総会ヲ開ク旨ヲ夫ニ通知セリ聞ク処ニヨレハ国民派ハ田島春之助小澤愛次郎ヲ推シ旧自由派ハ斎藤安雄新井鬼司ニ定メタリト云フ

香川縣

一 憲政党本部特派員片岡健吉田中正造ノ両人ハ去ル十日

来着セシヲ以テ翌十一日高松市可祝楼ニ大懇親会ヲ開ク来会者凡ソ九十名揚行藏開会ノ主意ヲ述ヘ堀家虎造ハ第十二議会ノ模様ヲ報告シ尋テ両党合同憲政党樹立ヲ是認ス今回ノ総選挙ニハ各区前代議士ヲ推選ストノ議案ヲ可決シ夫ヨリ田中序岡ハ順次ニ我党ノ基礎ヲ鞏固ニシ藩閥党ノ取返ス所トナラサル様注意シ憲政党ノ美果ヲ永遠ニ保持センコトヲ望ムトノ旨ヲ演説シ了テ宴会ヲ開キ無事退散シタリ

茨城縣

一 本月十三日水戸市常磐公園ニ旧自由党員七十余名会合シ協議会ヲ開ク関東倶楽部ヨリ宮部襄来会シ茨城自由党カ独立ノ決議ヲ為セシハ時勢ニ適セストテ合同ノ必要ヲ勧説シ関信之介ハ曩ノ決議ヲ取消シ合同セント述ヘ爰ニ於テ委員協議ノ上藩閥ヲ打破スル以上ハ大ニ官吏ヲ陶汰シ藩閥ノ余族ヲ一洗シ政党内閣ノ本領ヲ発揮スル為メ交渉委員ヲ設ケ憲政党本部及大臣ニ向テ交渉スル事ニ決シ而シテ左ノ決議案ヲ可決セリ

旧茨城自由党ハ関東倶楽部ノ仲裁ニ因リ先キノ決議ヲ取消シ合同ニ決ス

尋テ交渉委員七名ヲ選定セリ又旧自由党員ヲ以テ非政社的倶楽部ヲ設クル事トシ会長ニ関信之介ヲ推シ幹事ハ会長ニ於テ後日指定スルコトニ決シ散会セリ

大隈總理大臣閣下

必親展

警視總監西山志澄

テ直ケニ其関係ヲトスヘクモアラス彼等ハ実ニ内閣向後ノ方

以大華ヽセハ閣ハ秋ハ人

乙秘第三四〇號　九月七日

貴族院議員ノ談

客アリ某貴族院議員ヲ訪フ議員語テ曰ク予ハ現内閣ニハ反對ナリ然レトモ　陛下ノ信任シ給フ大臣其人ヲ悪ムニアラス唯國政ノ施設ニ付反對ナルノミ財政ノ整理ハ一日モ忽ニスヘカラス軍政亦一歩ヲ退クヲ許サス現内閣此秋ニ際シ如何ニ處セントスルカ實ニ此財政軍事ニ関スル現内閣ノ措置ハ豫算案成立不成立ノ分目ナリ然レ𪜈今日ノ侭ニテハ下院ハ無事通過スルモ上院ハ終ニ之ヲ通過セシムルコトヲ肯セサルヘシ故ニ結局現内閣ノ倒ルヽハ豫算案増税案ノ斃ルヽト同時ナルヲ知ルヘシ云々

又貴族院中内閣派否大隈派ト見做スヘキモノハ村田保等ノ輩六十名ニ過キス他ハ概ネ反對ト見認テ可ナリ谷曽我二子ハ大隈伯ト密着ノ関係アリト云フハ非ナリ両者一二回ノ面会ヲ以テ直チニ其関係ヲ卜スヘクモアラス彼等ハ実ニ内閣向後ノ方

[illegible]

必親展

針如何ニヨリ其向背ヲ決スヘシ且ツ村田ノ如キモ利益ニ趨ル
ノ徒更ニ價値アルモノニアラス云々

乙秘第五三〇號　十月廿五日

北信八州會大會

本日午前十一時京橋加賀町ノ事務所ニ於テ北信八州会ノ大会ヲ開ク会スルモノ左記七拾六名ニシテ先ツ石塚重平開会ノ辞ヲ陳ベ併セテ当会ノ規約及ヒ議案ハ已ニ評議員会ノ評決ヲ経タルモノニシテ且ツ又此三項ノ議案ノ趣旨ニ依リ各聯合團体ノ交渉ニ応シタルヲ以テ各員ノ事后承諾ヲ望ム又会場整理ノ為メ議長ヲ選挙セラレタキ旨ヲ陳ブルヤ満場石塚重平ヲ推シタルヲ以テ仝人ハ議長ノ席ニ就キ左記議案ノ審議ニ移レリ

議案

一　根本的改革ヲ行ヒ更始一新ノ実ヲ挙クル事

二　廣ク人材ヲ登用スルノ路ヲ開ク事

三　旧来ノ感情ヲ脱シ努メテ吾党ノ鞏固ヲ計ル為メ北信仝志ハ一致ノ行動ヲ為ス事

追加

一 外交方針ヲ確立スル事
一 財政ヲ整理シ其基礎ヲ鞏固ニスル事
然ルニ増田義一ハ左ノ修正説
一 現内閣ヲシテ更始一新ノ実ヲ挙ケシメ以テ憲政ノ完美ヲ期スル事
一 旧来ノ感情ヲ一掃シ協力一致以テ憲政ノ鞏固ヲ計ル事
ヲ提出セシニ山添州普ハ此ノ修正案ハ大体ニ止マルヲ以テ新潟支部ヨリ提出セル左ノ議案
一 行政制度ヲ整革シ中央集権ノ弊ヲ矯メ地方自治ノ方針ヲ採ル事
二 左ノ法令ヲ改正廃止スル事
一 文官任用令ヲ全廃スル事
一 府県郡市町村制ヲ改正シ知事郡長ヲ公選シ階級制ヲ全廃シ直接選挙法ヲ採用スル事
三 衆議院議員選挙法ヲ改正シ無記名連記投票ヲ採用スルヿ

四集会政社法ヲ全廃スル事
五財政整理ハ主トシテ財政ノ基礎ヲ確定シ必用ナル限度ニ
於テ消極的整理ノ方針ヲ採ル事
六政府ノ要路ニ当ル薩閥ノ遺類ヲ一掃スル事
ヲ加ヘ審議セラレタシト陳ブ
於茲議長ハ修正案ヲ採用スルヤ否ヲ議場ニ問ヒタルニ増田義
一ハ修正案ノ成立ヲ主張シ稲垣示ハ委員ヲ選定シ各議案ヲ審
査セシメ其結果ヲ議案トシ会議ニ付スベシト述ベ議長採決セ
シニ拾名ノ少数ニテ修正案ヲ採用セザルニ決ス
夫レヨリ原案ニ就キ討議ヲ為シ議長採決セシニ四拾名ノ多数
ヲ以テ之ヲ可決シ追加案モ亦仝様可決セリ
右了リテ評議員及ヒ幹事ヲ選挙セシニ左記ノ者当選シ正午十
ニ時一同退散セリ

福井縣幹事 山口 定省
仝 評議員 内山 松吉

新潟縣幹事　八木原繁祉
仝　評議員　竹村良貞、波多野傳三郎、西潟為藏、山添武次
野口竹次郎、
長野縣幹事　石塚重平
仝　評議員　伊藤大八、島田想助、瀧沢助三郎、丸山名政
百瀬廣之助、

以上

出席人名

稲垣示　遠藤秀景　百瀬廣之助　石塚重平
大瀧傳十郎　長谷川豊吉　田代壽明　小畑岩次郎
大針徳兵エ　高木榮太郎　島田想助　兒島席之助
熊野喜太郎　鈴木治三郎　小林樁宗　大野甚助
名倉忠治　藻寄鉄五郎　廣永斌　前川榮一
藤中觀邦　林亥一　兒嶋銀三郎　福田常松
木吉九十郎　黒田義雄　瀧沢助三郎　金山米次郎

川内二次郎　鈴木義雄　井上平三郎　渡辺猶人
長谷部耕七郎　山蔵伊勢太郎　飯島正治　橋本直規
西田収三　土肥善四郎　高崎善吉　日南内宇八郎
村瀬金廣　坂口信止　竹村良貞　西田彦平
赤土亮　金田平五郎　松本京作　山添州普
中田弥平　横地正果　島崎良太郎　荻中淡次
室孝次郎　山口定省　橋本勤　樋口啓四郎
関亮　林登喜太　若林忠之助　工藤直三郎
矢沢造酒　宮原佐七郎　両鷲晋太郎　上田良平
中川源藏　粂茂範良　増田義一　野口竹次郎
山添武次　田辺熊一　小林久次郎　川久保伊垂
加藤勝弥　寺崎泰吉　上野安太郎　川瀬八郎

秘

警視總監山田為暄

大隈外務大臣閣下

親展

ニ希望スル處ハ畫策知ノ如キ自由黨ノ事ハ實ニ眼

乙秘第七八六號 八月七日

青年自由黨員集會ノ件

本月六日午後二時ヨリ京橋区木挽町五丁目料理店萬安ニ於テ自由党青年輩旧交ヲ温メンカ為メ懇親會ヲ開キタリ来会者ハ山田慶次、篠崎有一郎、小松毅、赤井金十郎、北村熊三郎、池山文雄、西村嘉吉、有村徳次郎、加藤真、中西元次、中村致太郎、寺崎泰吉外一人（蠣売町通称ヂヤ和ト云フ者）十三名ニテ仝五時頃ヨリ酒宴ヲ開キ席定マルヤ寺崎泰吉ハ起テ簡単ニ左ノ主旨ヲ演説セリ

一本日諸君ト此處ニ會合シタルハ別ニ協議等ノ必要アルニアラズ既往数年前迄ハ諸君ト相提携シ共ニ辛酸ヲ嘗シガ其後種々ノ事情ニ妨ケラレ各意見ヲ共ニスルコト能ハサリシヲ以テ今此處ニ會合シ数年前ニ遡リ専ラ旧交ヲ温ムルニアレハ充分胸襟ヲ開キ談笑アランコトヲ望ム而シテ又僕カ将来ニ向テ諸君ニ希望スル處ハ御承知ノ如キ頃日自由党ノ先輩ハ実ニ暗

睡セリ茲ニ於テ之レヲ覺醒セシムルハ最モ吾々ノ任務トスル處ナレハ此任務ヲ果サンニハ或ハ一ノ障碍ニ遭遇スルヤ計ルヘカラズ吾ナ寧ロ自ラ其障碍ニ衝突スルノ決心ヲ以テ奮進シ倶ニ國家ノ為メニ盡碎セラレンコトヲ望ム云々

一 次ニ某曰ク目下彼ノ露國ハ秋カ日本國ヲ併呑セン抱負ヲ持シテ軍人及商人ヲ内地ニ放チ就中ニコライノ如キハ多数ノ間諜ヲシテ軍事上ハ勿論其他萬般ノ動靜ヲ探知シテ一々本國ニ通報シ居レリ之レニ對シ充分注意警戒ヲ要ス云々

一 中村敬太郎旧交ヲ温メ而シテ一ノ團体ヲ組織シテ大ニ運動セントノ意ヲ述ヘタルニ付山田慶次之レヲ賛成シタル故寺崎曰ク然ラハ自由党ノ別動隊トシテ其團体ヲ組織シ自由黨ニ隷属スルニアラズシテ寧ロ自由黨先輩ヲ指揮監督スルノ決心ヲ以テ運動スヘシ云々又曰ク衆知ノ如ク現内閣ハ外交ニ失敗シ内政ヲ紊乱セシメ一トシテ見ル可キナシ依

テ吾々ハ國家ノ爲メ現内閣ヲ顛覆シ新内閣ノ組織ニ勞
メサル可ラズ之レヲ組織スルニハ前内閣即チ自由主義ヲ
持スルモノヲ以テ組織セザル可ラズ云々夫ヨリ二三大同小異
ノ議論アリシ后寺崎カ發言シテ其團体組織ニ就テハ來ル九
日午後一時ヨリ新着町開花亭ニ集マリ團体組織ニ
付提議スルコトニ決シ其組織ニ係ル起草委員ハ寺
崎泰吉、山田慶次、中村敬太郎ノ三人負担スルコトト
ナリシ而シテ其團体組織成リタル曉ニハ之レカ機関新
聞必要ナレハ奥野市次郎ニ交渉シ明治新聞ヲ以テ
之レニ充テン云々ノ談話アリシモ之レニ對シ別ニ賛否ヲ
決スル處ナカリシ
一夫ヨリ詩吟剣舞酣ニシテ各歡ヲ盡シ寺崎泰吉
拾弐円ノ支拂ヲ為シ午後八時一同退散セリ此宴会
費ハ總テ寺崎泰吉一人ニテ負担シ其催ヲモ同人ノ發
起ナリシト云フ

乙秘第五一七號　　十月廿一日

通信社員集會

昨日午后五時ヨリ各新聞社ニ関係アル通信員ハ紅葉館ニ會合シ將来仝業者間ノ親睦ヲ厚フスル爲メ且又互ニ其業務上ニ就キテ研究ヲ爲スノ必要上ヨリ廿日會ト称スル者ヲ組織シ今後毎月廿日ヲ以テ適宜ノ場所ヲ撰定シテ會合スルノ規定ヲ設ケ昨日ハ其ノ第一回ノ會合日ニアリタルヲ以テ種々業務上ノ談話ヲナシ毎月會員中ニテ順次幹事ノ任ニ当ルヿトナシ其レヨリ酒宴ヲ開キ仝十二時頃ニ散會ナシタリ

出席人名

中野寅次郎　円城寺清　繁野珠城
柵瀬軍之佐　佐藤熊鉄　弓削田精一
西川淺五郎　大屋誠夫　村松恒一郎
工藤寛造　増田義一　金山某

早川　某
山田　某
堀　某

三浦　某
田中　某
末永　某

乙秘第五一九号　　十月廿二日

全國青年大會

明廿三日上野公園内竹ノ臺ニ於テ全國青年大會擧行ノ旨
發起人松村猪三郎ヨリ所轄下谷警察署ヘ届出タルヲ以テ
認可シタリ其開會ノ順序ヲ聞クニ午前九時ヲ期シ會員上
野ニ参集大隈板垣両伯ノ祝文青年會総代ノ答辞等ア
リタル後左ノ順序ニヨリ擧行スル筈ナリト云フ

一着席　二奏楽　三開會ノ辞　四宣言書朗讀　五祝文
祝電朗讀　六来賓祝辞　七奏楽

次ニ餘興トシテ奏楽、釼舞、撃釼、綱引、角力　豚逐ヲ為
シタル後酒肴ヲ出シ而シテ爆竹ヲ発シ散會ス

來會者ハ凡ソ千五百名ノ豫想ナル由

宣言

政党内閣漸ク成リ我党先輩袖ヲ聯ネテ廟堂ノ上ニアリト雖
モ基礎尚ホ未タ鞏固ナラス従テ面目一新スルニ至ラス是レ

我党ニ統一ナク組織ノ充分ナラサルカ故ナリ然レトモ背後ニ立テル
藩閥ノ餘類ハ他ノ頑冥ノ徒ト共ニ我カ隙ニ乘セントスルニアリ吾人
決シテ一日モ警戒ヲ怠ルヘキニアラス
夫レ政党内閣ハ基礎ヲ政党ノ上ニ置キ政党ハ則チ其内閣ヲ
信任シ輿論ト信任ト相戻ラサルヲ要ス然ルニ現内閣ハ未タ我徒
ヲシテ満足ヲ表セシムル実効ナク動モスレハ則チ輿望ト相反セン
トスルカ如キ者ナキニアラス是レ大ニ吾人ノ注意スヘキ所ナリ我先
輩諸氏ハ今ヤ進ンテ廟堂ニ立チ其經綸ヲ行フニ於テ能ク平
生ノ所信ニ及カサルヲ信スト雖モ未タ其実行ヲ見ル能ハサルハ畢
竟其基礎タル政党ノ鞏固ナラサルニ原因セスンハアラス故ニ吾
人ハ今ニシテ内閣ニ向ツテ敢テ何等ノ請求ヲ為サス則チ青年固
有ノ本領ヲ守リ只我党ヲシテ極メテ鞏固ナル團体トシテ而シテ
現内閣ヲシテ其ノ所信ヲ貫徹セシメ初期政党内閣ノ好模範
ヲ中外ニ示サント欲スル而已
請フ眼ヲ放ツテ宇内ノ形勢ヲ見ヨ欧州列強ハ其ノ角抵一場裡

ヲ東方ニ轉シ亜細亜ノ風雲益ニ急ニシテ我カ唇歯輔車ノ
老大帝國ニ向テ将ニ分割的問題ヲ提起セントスルモノアリ我
カ外交上ノ急迫夫レ如斯而メ内ニ顧レハ政党内閣ノ基礎
尚未タ鞏固ヲ缺キ為メニ挙國一致ノ実ヲ挙クル能ハサルカ如
キハ豈ニ復タ憂フヘキ次第ニアラスヤ茲ニ吾人ハ本會ヲ開
クニ当リ左ノ三項ヲ誓ヒ若シ之ニ反クモノアラハ仮借スル所ナク之
レニ制裁ヲ加フヘキノミ特ニ茲ニ宣言ス

一　現内閣ヲシテ政党内閣ノ実ヲ挙ケシムルニ努ムル事

一　旧来ノ感情ヲ一掃シ我党結合ノ鞏固ヲ謀ル事

一　吾人ノ所期ヲ達スル為メ全國憲政党青年會ヲ組織スル事

大隈總理大臣殿

親展

警視總監西山志澄

コトニナリ即チ朝比奈岸田大而ノ三人ヲ ……

同ク卜及読頭呼外交項等趣倒

乙秘第五一六號　十月廿一日

星ヶ岡茶寮ノ集會

昨廿日左記ノ人々茶寮ニ會合點燈後席定マルヤ牧朴眞ハ清國ノ政變ニ付諸君ノ會合ヲ乞フノ必要ヲ認メ此ノ會ヲ催シタリトノ趣旨ヲ述ヘ大岡育造ハ旅行日誌的ノ演説ヲ爲シタルモ其言フ所專ラ伊藤侯ノ働作ヲ述フルニ止リ自家ノ意見ヲ挿マス言辭謹愼勉メテ會員ノ同情ヲ惹カントスルモノヽ如シ既ニシテ塚原周造ヨリ支那ノ將來ヲ如何ニナスヘキヤトノ問題ヲ提出シ青木ハ先ツ帝國外交ノ方針ヲ確定スル以上ナラテハ何事ヲモ決スルヲ得ストノ意味ヲ以テ之ヲ打消シ清浦奎吾ハ宜シク帝國ハ獨力以テ清國ヲ扶殖スヘシト駁シ青木ハ更ニ外國ニ於ケル外交政略ノ掛引キ多ク單純ナルモノニアラサルヲ説キ尚外國人ノ日本ニ對スル感情ノ一般ヲ及ボシ朝比奈知泉ハ今夜ハ時モ移リタレバ重ネテ會合ヲ催スコトトシテハ如何ト發議シ岸田吟香之ニ同意シ結局委員ヲ置クコトニナリ即チ朝比奈岸田大岡ノ三人之ニ當ルコトヽナリ矢張同

所ニテ来月四日ニ開クコトヽシテ散會セシハ午後十二時ナリシ當日ノ
出席者ハ左ノ如シ

今井磯一郎	石橋孫八	大坪利晋	酒井弋次郎
大岡育造	大埣宗重	荒川邦藏	中川克一
松平正直	岡部長職	岸田吟香	古莊嘉門
坂田昌織	和田彦次郎	千家尊福	青木周藏
曾宮禄祐	平山靖彦	塚原周造	五十嵐光彰
牧朴眞	松井廣吉	水野遵	朝比奈知泉
清浦奎吾	安場保和	織田純一郎	川崎三郎
桑谷武一郎	中川興長	大河内正質	松柏栞

外ニ園田、寺原ハ病氣、金子ハ黒田家ノ祭日ニ相當スル由ニテ斷リ
岡内ハ楼上ノ土佐會ヨリ帰路立寄ル筈ノ處如何ナル故ニヤ遂
ニ會セサリシ
牧ハ當日ノ席上ニテ内治外交ニ就キ現内閣ノ秕政ヲ痛論シ貴族
院諸氏ニ向テ

陛下ニ伏シテ其ノ無能ヲ直奏セラレンコトヲ望ムトノ協議ヲ為
サントテ一ノ原案ヲ齎シ来リシモ大岡等ハ突然如此ノ提議ヲ為スハ
會員ノ感情ヲ毀クルノ恐レアリ面白カラズトテ之ヲ見合セリ然レ
ドモ次會ニハ本會ニ比シ二三歩ヲ進メタル形勢ヲ視ルヤ凝ナシ
最モ本會ハ初會ノ事トテ何事モ差扣ヘ恰モ處女ノ初見對面ニ於
ケル如キ挨拶振リニテ特ニ清浦青木等ノ間ニハ何トナク打解ケ
サルカ如キ状態ナリシ

乙秘第五一四号　十月廿日

政友倶楽部員ノ会合

本日午后二時ヨリ京橋新肴町開花亭ニ政友倶楽部員山口弾正、加治寿衛吉、樽井藤吉、稲垣示、外六名会合憲政党大会ニ提出スル財政、外交、等ノ諸問題ヲ議定スルタメ評議員十名ヲ選バント発議セルモノアリテ種々協議ノ結果評議員ノ選定ハ常議員稲垣示、綾部竹之助、山口弾正ノ三名ニ一任スルコトトシ来ル廿四日頃評議員会ヲ開キ右問題ヲ議定スルコトニ決ス尚ホ其問題中ニハ藩閥、党閥ノ弊ヲ除却スルコト、文官任用令全廃ノコト、等ハ主要タランコトニ協定シ仝六時散会ス

乙秘第五二四號　十月廿四日

憲政党全国青年大会委員会（第二報）

前報後左ノ役員ヲ選挙セリ

松村猪三郎　佐久間傳太郎　大熊三之助　前川虎三　根岸貞三郎　川上行義

幹事

長谷川逸刀　柿目玄　天野政立　原十目吉

常議員

小松寂　三浦亀吉　川村増吉　西内正基
瀬下秀夫　浦上裕藏　小笠原誉至夫　中村椿雄
北村熊三郎　金山米次郎　内藤武兵エ　鈴木仙藏

実行委員

佐久間傳太郎　小田垣哲次郎　伊藤仁太郎　浦上裕藏
原島仙助　田谷豊松　中村椿雄　江間俊一

右終ツテ懇親会ニ移リ原十目吉ノ挨拶大熊三之助、天野政立ノ謝辞アリ次ニ渡辺武雄ハ起テ自分ハ伊藤内閣ノ時ニ当リ仝侯ヲ仆サント企テ為メニ檻倉ニ呻吟シタルモ是レ全ク国家ヲ思フノ一念ニ出デタル

ノミ故ニ今后モ仝侯ノ入閣スルガ如キヿナカランヿヲ希望スル旨ヲ
述ベ續テ小松毅ハ本会ノ継續ニ付希望ヲ陳ジ酒酣ニシテ剣舞ヲ演ス
モノアリ仝七時卅分午后散会セリ

乙秘第五四七號　十月三十日

北信八州會解散

本日午前九時ヨリ北信八州會ハ加賀町事務所ニ評議員會ヲ開キ會スルモノ

松田定一　林彦一　山口定省　石塚重平　稲垣示
長谷川豊吉　上野安太郎　西田収二　野口竹次郎　島崎良太郎
川瀬八郎　多田恕助　山添武治　西潟為蔵　伊藤大八
大針徳兵衛　小畑岩次郎　大瀧傳十郎　外十四五名

ニシテ協議ノ末

憲政党ハ昨廿九日其大會ニ於テ解党ヲ決議セリ依テ當北信八州會ハ本日ヲ以テ解散スルモノトス

ト決議ノ上同十一時一同散會セリ

乙秘第七五七號　七月廿四日

自由倶樂部員集會

（乙秘第七五三号參照）

昨廿三日自由黨本部内ニ於テ自由倶樂部員ノ集會ヲ開キ例ノ公開書ノ件ニ付協議ヲ為シタリ自由黨幹事田中賢道モ出席シテ

一昨廿二日自由倶樂部ノ決議ニ係ル三大臣ニ公開書ヲ與フルハ今日ハ其ノ時期ニアラズ宜シク本年秋季ニ於ケル全國青年大會ノ後チニ為スベシトテ延期説ヲ述ベタリ要領左ニ

公開書ヲ以テ閣臣ノ反省ヲ促スハ立憲的ノ動作トシテ適當ナリ然レ圧閣臣決シテ之ヲ容ルヽコトアルマジ反テ吾人ニ侮ヲ與ヘ或ハ新聞紙上ニヨリテ駁論ヲ加フルハ勿論ノコトナリト覺悟セザルベカラズ其ノ時ニヨリテ自由倶樂部ハ之ヲ處スルニ如何ナル決心アルヤ大言壯語ハ人呼ンデ快トスルモ其實行ナキ時ハ又大ニ吾黨ノ威信ヲ損ス乃チ今日吾黨ノ運動ハ最モ鄭重ナラザルベカラザルニ實行ノ殆ンド覺束ナキコトニ対シテ而カモ喚起セントスルハ甚ダ策ノ得タルモノニアラズ宜シク全國青年大會ヲ待チ（十一月開會）大擧更ニ大運動ヲ為スベシ左スレバ又一面議會ニ於テハ議場

ニ之ヲ提出シテ輿論ヲ喚起スルノ便アリ出ル上ハ余ハ必ラズ其ノ時機ニ於テ之ヲ
日ヨリモ宜シキヲ得ルナラント信ズ云云
右之説ハ他ノ委員一人トシテ賛成スルモノナリ斯ル説ノ突然トシテ意外ニ出
デシヲ疑ヒ大ニ反駁セラレタリ其ノ要旨ハ
今日此ノ公開書ヲ発シ置キ他日又更ラニ一層沈痛ナル文書ヲ発スル
見込ナリ何ゾ徒ラニ他日ヲ期シテ今日ヲ猶豫スルノ理アランヤ云云
数回議論ノ末遂ニ田中ノ説ハ満場ノ排斥スル所トナリシヲ以テ同人ハ後チニ
ハ自説ノ非ヲ謝シタリ而シテ公開書ハ必ラズシモ激論ニ渉ラズ實ヲ擧ゲ情
ヲ尽シ又禮ヲ尽シテ決シテ無礼暴慢ナラズ最モ沈痛ナル辞句ヲ以テ綴リ勉
メテ輿論ノ同情ヲ惹カントノ考ヘナリ財政、外交、台湾ノ不振問題等ハ其ノ
事實ヲ解明ナラシムルニ容易ノ事ニアラザルニ依リ該書ノ脱稿発表ハ
来月ノ見込ナリ

乙秘第七七四号　八月二日

在布哇自由党員ノ書翰

自由党員山口熊野ハ布哇移民拒絶事件談判ノ実況偵察トシテ渡航シタルモノナルカ全党本部ヘ郵送シタル書面左ノ如シ

書翰ノ要領

茲昇来布合併問題ニ付日本政府ハ反抗ヲ表シ居ルハ由ナルガ布哇在住日本人ハ頃日布哇党ト云フ一團体ヲ組織シ土民ヲ煽動シテ米布合併ニ反對セシメント運動為シツヽアリシガ何分土民ハ愚頑一偏ノ事理タモ識別スルコト能ハザレバ奈何ニ日本人ガ奔走尽力スルモ其効力少ナシ殊ニ島村公使ノ如キハ日本人ガ斯ル騒擾ヲ為スハ日米談判上ニ障害ヲ来ストシテ之レヲ妨ケ居レリ然レドモ布哇國ノ議會ニ於テハ米國ト合併スルヲ好マザル有様ナレド國務大臣タルスミス氏

ノ如キハ熱心ニ合併ヲ唱道シ居レハ日本政府ハ米國
ニ對シ強力ナル手段ヲ以テ反抗スルニアラサレハ到
底目的ヲ達スル能ハス日本政府ヲ監督スルハ吾
党ニアレハ大隈ヲシテ充分責任ヲ負ハシムルニ若ク
モノナシ尚ホ日本政府ノ意向如何ヲ一報アリタシ云々

在布哇國

山口熊野

八月十八日

東北青年会趣意書

今ヤ国事更新ノ機ニ会ス而シテ其施設経綸ノ如何ハ實ニ我邦家百世ノ栄辱ニ関スルヤ大ナリ吾人夙ニ千歳ノ憂ヲ懐キ僅カニ暴政創立ノ端ヲ今日ニ致シタルモノ豈百尺竿頭一歩ヲ進メテ更ニ有終ノ美ヲ濟サヾルベケンヤ蓋シ藩閥既ニ仆ル、モ其根帶未タ去ラズ元老既ニ衰セルモ其禍冥未タ熄ラズ朝ニ在ルモノ情実ニ牽制セラレ野ニ在ルモノ私利ニ汲々トシテ遠大ノ計ナク因循姑息国事ヲ挙ケテ上下紛糾渦中ニ投セントス況ンヤ邦家内外ノ形勢日ニ益々急ヲ告ケ国事更新ノ偉業一日ヲ緩フスベカラザルノアルニ於ケリヤ嗚呼誰ト與ニカ邦家青年ノ長計ヲ画センヤ我東北ノ純潔剛健ニシテ而カモ有為猛断ナル青年諸士此際何ソ蹶然起テ其経綸雄図ヲ実践発展セザル何ゾ猛然奮テ其奸邪溷濁ノ妖氣ヲ掃蕩セザル吾人茲ニ正義ヲ守リ公道ヲ履ミ肝膽ヲ披瀝シ熱誠ヲ竭尽シテ諸士ト共ニ此大事ニ当ラントス嗚呼諸士北斗星下千歳青史ヲ繙ニ南窓月白十年一

叙ヲ瞥スルニノ機逸シ易シク時得難キヲ知ラバ豈此機此時ヲ
リ以テ謝金起舞蔵ナカラシヤ同感者来リ会セヨ
明治三十一年十月

創立者

秋田	飯村粋	石井信
山形	塩気義慶	瀬下秀夫
岩手	京谷孝助	二村研
青森	石郷岡文吉	出町源蔵
宮城	佐藤勝太郎	澤来太郎
福島	阿野慶體	赤坂儀作
北海道	小橋栄太郎	

規約

一 本会ハ東北ノ一致団結ヲ計ル事
一 本会ハ東北青年会ト名称ス
一 本会ハ毎年両各縣輪番ヲ以テ大会ヲ開クモノトス其順序方法

ハ常務委員ニ一任ス
一 本会ハ本部ヲ東京ニ置キ支部ヲ各縣ニ置クモノトス
一 本会本部ニ於テ毎月一回（十五日）例会ヲ開ク但シ必要ノ場合
ハ臨時会ヲ開クヿ
一 本会常務委員七名ヲ置キ一切ノ事務ヲ処理セシム
一 本会ノ経費ハ会員ノ醵金ト有志ノ寄附ヲ以テ之レニ充ツ
一 入会セントスルモノハ常務委員ノ許可ヲ得ベシ

警視總監西山志澄

大隈總理大臣殿

親展

一東北青年會ハ如何ナル政変ニ際会スルモ獨立ノ態度ヲ保持スル事

乙秘第五四六號

東北青年会大會　十月三十日

本日神田錦輝館ニ開キタル東北青年大会ハ会スルモノ左記四拾名午後三時十分開会河野廣躰開会ノ趣旨トシテ別紙趣意書ノ説明ヲ為シ大和正文ヲ会長ニ指名シ正文会長席ニ着クヤ

河野廣躰ハ宣言書ヲ朗読ス

宣言

政海ノ波濤澎湃天下人心ヲシテ帰着スル所ヲ失ハシメントス此時ニ當リ屹然トシテ中流ノ砥柱トナリ濁浪ヲ排シ狂瀾ヲ廻シテ進ム者獨リ我東北人士アル而已我輩東北ノ青年タル者安ンゾ身ヲ挺シテ此時局ヲ濟セザルベケンヤ依テ其方針ヲ明ニスル為メ宣言スル事左ノ如シ

一東北青年会ハ如何ナル政変ニ際会スルモ獨立ノ態度ヲ保持スル事

大隈總理大臣殿　親展

満場異議ナク可決ス
次ニ建議案朗讀

建議案

一東北獨立ノ態度ニ背反スル行為アル者ニ對シテハ斷然タル制裁ヲ加フル事

右建議候也

明治三十一年十月三十日

提出者

三浦綱範　鈴木然寛　河野廣體　今野東吉
二村石研　三島駒治　高橋台平　志賀亘
大網最正

是亦異議ナク満場一致ヲ以テ可決セリ
次ニ常務委員七名ハ各縣ヨリ之ニ互選シテ通知スルニ據ルトセル
其ノ朗讀スル左ノ如シ

秋田　石井信　岩手　遠藤安策　福島　河野廣體

山形　鈴木然鶴

小海道青森宮城ノ三縣ハ東京ヨリ時ニ午後三時四拾分開会シ續テ懇親会ニ移リ同七時無事散会セリ

出席人名

河野広体　亀山雄三　伊藤直純　三好市太郎　若林八弥　伊藤順雄　河瀬鉄頼　赤沢光頼　上野孫之助　大和正文

郡司鶴吉　大江孝　沼間小太郎　佐藤鶴吉　村松倍吉　山田大六　深田清之助　斎藤七郎　宮戸善緑

石井信　小松雄太郎　河瀬得三　内ヶ崎勝頼　原田駒之助　清岡源太郎　明石恒吉　平塚直輔　鈴木然翁

齋藤栄次　大塚保義　氏家清　三浦綱花　菊名沖恵　三島駒次　河[illegible]昌織　植田祥三　志賀直

外八名

大隈外務大臣殿

必親展

警視總監山田為暄

乙

書　　得

タ

睦

末

自

等

一人

ナリ

ノ　尒

乙秘第七七五号

関東自由青年大会及運動ノ費用渡美　　八月三日

青年大会及運動会費用ハ豫期ニ反シ僅ニ千五百円ニテ支弁シ得タリト云其出金者ナリト云フヲ聞クニ

陸奥伯　二百円　　渡辺子　百円　　伊東男　百円

末松男　五拾円　　竹内綱（陸奥伯ノ周旋ニテ）百円　　中島男　三拾円

自由党本部　四百円

等ニシテ其他大会并ニ運動会ニ出席シタルモノヨリ計二百三十円余（一人二十銭ツヽ）餘ハ代議士又ハ党員ノ内ヨリ五円壱円位ツヽ寄贈セシモノナリト云フ

乙秘第七七七号　八月三日

自由党総代ノ各大臣訪問

自由党員総代トシテ松田正久鈴木充美重岡薫五郎石塚重平谷河尚忠高橋安爾ヨリ大隈外務大臣ニ書面ヲ送リ外交上處置ノ失体ヲ鳴シ辞職勧告シ之ニ就テハ松方総理大臣ニ對シテハ倶ニ其責ヲ負ヒ處決アランコトヲ勧告シ其他ノ各大臣ニ向テハ大隈外務大臣ニ速ニ辞職セラル丶ヤウ處置アランコトヲ勧誘スル為前記人名ハ各大臣ヲ訪問スル筈ナリト云フ

乙秘第四九八號　　十月十五日

關東会員ノ集会

本日正午ヨリ上野不忍辨天社内長蛇亭ニ於テ関東会員ノ茶話会ヲ催シ根岸貞三郎ハ会ノ趣旨トシテ関東会ノ名称ハ憲政党トナリタル今日ニ当リ何トナク穏カナラザルノ感アルヲ以テ改称シテ如何要スルニ吾々ハ意志ノ結合ヲ会ノ目的トスルモノナレバ今日他ヨリ注目セラル、如キハ得策ニアラズト述ベ就テハ之レヲ政友会或ハ旧友会又ハ親友会ト命名セントノ発議スルモノアリシガ結局親和会ト称スルコトニ決シ尚ホ此ノ会ハ関東人ニシテ意気相投合シ赤心ヲ打明ケ政治上死活ヲ共ニスル者ヲ希望スルニ依リ今後入会セントスル者アル時ハ其人物ヲ撰擇シ猥リニ入会セシメザル為メ会員三名以上ノ紹介ヲ要スルコト、シ終テ酒宴ヲ開キ午七時散会セリ

出席人名

中島又五郎　板倉　中　新井　章司　根岸貞三郎

宮部　　襄　伊藤仁太郎　村居鉄二郎
外十三名

乙秘第四九七號　十月十五日

加能倶楽部員ノ集会

本日午后二時ヨリ京橋新肴町開花亭ニ加能倶楽部員
遠藤秀景　松本郡太郎　米田穰　小島銀三郎　外七名集会
シ仝倶楽部ノ通常会ヲ開キ左ノ事項ヲ議定セリ
一　憲政党大会ノ一日前ニ加能倶楽部ノ大会ヲ開クヿ
一　加能倶楽部大会ノ当日迄ニ評議員ヲ確定スルヿ
一　憲政党大会ニ列席セシムル代議員ヲ浅倉外茂鉄、米田穰ト
スルコトヲ遠藤ニ於テ指名シ遠藤ハ前代議士ノ資格ヲ以
テ出席スルヿ
右了テ幹事評議員ノ権限ヲ定メ置カント発議スル者アリシガ
是等ハ不日大会ニ於テ議定スベキノ事項タルヲ以テ本会ニハ
評議スルノ要ナシトテ成立セザリシ
尚ホ各團体実行委員ガ各大臣ヲ訪問セシ結果ヲ明後日迄ニ其
団体ニ報告スル筈ナリト告ゲ仝五時散会セリ

出席人名

紫原和
持田直
山田喜之助
堀田連太郎
新井章吾
武藤金吉
小川三千三
川口善之助
蜂須賀又太郎
佐久間貞一
塩谷恒太郎
岡部廣

野口褧
青木正太郎
加藤政之助
大井憲太郎
高津仲次郎
江間俊一
町田朝太郎
黒部與八
飯塚朝次郎
花井卓藏
高橋安爾
渡辺勘十郎

星亨
梶野敬三
布施甚吉
嶋田三郎
橋本省吾
新井鬼司
小金井権三郎
大竹貫一
鯉沼九八郎
星松三郎
利光寉松
円城寺清

鳩山和夫
堀越寛介
田村順之助
石坂昌孝
板倉中
井田忠信
木暮武太夫
土方房五郎
金井貢
村居鉄次郎
松本郡太郎
藤中観邦

外三十四名

出席人名

上田良平　藻寄鉄五郎　八木原繁祉　堀田連太郎　徳差藤兵工
遠藤秀景　名須川良平　小田為綱　鹿島秀麿　児島惟謙
奈須川光宝　島田三郎　大井憲太郎　加藤政之助　阿部興人
工藤行幹　渡辺勘十郎　福田常松　首藤陸三　大隈英麿
浅香克孝　鈴木重遠　波多野伝三郎　戸狩権之助　山田猪太郎
横山富次郎　藤中観邦　荒川高三郎　平岡浩太郎　寺田彦太郎
沼田宇源太　柵瀬軍之佐　木吉九十郎　尾崎行雄　堀越寛作
丸山名政　武市彰一　武石敬治　芳賀宇之吉　石田貫之助
室孝次郎　高木正年　四宮有信　大津淳一郎　大塚成吉
金山従革　鈴木文三郎　松本郡太郎　田中正造　市島謙吉
中島祐八　河野広中　大滝伝十郎　黒田兼雄

外十五名

乙秘第五三〇號　十月廿六日

北信八州會員ノ懇親會

昨日正午十二時北信八州會大會ノ後京橋区築地柳花苑ニ懇親会ヲ開キ会スルモノ

石塚重平　稲垣示　竹村良貞　瀧澤助三郎
横地正果　坂口信止　倉茂範良　荻中喜文二
黒田義雄　百瀬廣之助　島崎良太郎　西田收二
長谷川豊吉　大滝傳十郎　高木葉太郎　児島銀三郎
井山惟誠　林彦一　川瀬八郎　上野安太郎
飯島正治　渡邉直人　山越伊勢太郎　早川権弥
玉把善四郎　山添武治　田邊熊一　小林福宗
上田良平　小宮山虎之助　若林忠之助　工藤直之郎
田代壽円　鈴木治之郎　加藤勝弥　寺崎泰吉
林登喜太　外　十七名

ニシテ午後一時配膳某起立シテ簡短ニ開會ノ趣旨トシテ吾々ハ憲

政黨中ノ一團体タレバ一意專心現憲政党内閣ノ擁護ニ努メサルヘカラズ
ト述ベ次ニ某起立シテ直江津鉄道敷設ノ事ハ國家ノ為メ又北陸地
方ノ為メニ最モ必要ナリト説キ已ニ逓信省ニ於テモ其必要ヲ認メツヽアリ
就テハ之レニ関シ諸君ニ於テモ充分尽力一日モ早ク其ノ成功ヲ期
セラレンコトヲ望ムト述ベ次ニ又某起立シテ曰ク目下清國ノ有様ヲ
見ルニ其状恰モ明治廿七八年ニ於ケル朝鮮國ニ似タリ今ニ於テ之ヲ救済
スルニアラズンハ他日事必ラス破裂シテ遂ニ済フヘカラサルニ至ラン而シテ之レガ
衝ニ當ルハ隣邦タル我國ヲ措キ他ニアルナシ目下我國ノ外交政策中對清
問題ヨリ重大ナルモノナキニ之ヲ當局者ニ質セバ唯財政ノ許サヾル為メ之ヲ
行フコト能ハズト財政ノ許サヾルノ故ヲ以テ之ヲ傍観スルガ如キアラバ遂ニ済
フベカラサルニアルベシ茲ニ早クモ對外政策ヲ確立シ隣邦國タルノ情誼上
奮然之レカ救済ニ當ラサルベカラス云々ト述ベ終ルヤ夫レヨリ酒宴ニ移リ
各自歓ヲ尽シテ午後三時散会シタリ

乙秘第五三二號　十月廿六日

三多摩郡青年會組織

（乙秘第五一五號参照）

三多摩郡青年會組織相談會ハ去廿五日午後三時ヨリ三多摩郡各町村ヨリ壱名乃至五名計五十二名八王子蟠龍館ニ参集協議ノ末

幹事ニハ

幡野勝太郎　井上市藏　田沼久吉

委員ニハ

加藤長次郎　若林俊之助　福井猪三郎

指田常吉　間橋重太郎　山崎浪三郎

宇津木兼太郎　石川権三郎　天野竹八

ヲ選ヒ来ル十一月廿三日ヲ以テ大會ヲ擧行スルコトニ決定シ午後五時三十分無事散會セリ

大隈内閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

秘

十二團体ノ集會

本日午後四時半ヨリ神田錦輝館ニ十二團体員[illegible]

[illegible]總員[illegible]一同[illegible]

[illegible]ニ於テ決議[illegible]

大會ニ提出スル爲メ一應總務委員ノ許ニ差出[illegible]

容レラレザル場合ハ吾々ヨリ直ケニ大會ニ提出スベシ

ノ要旨ヲ決議シ午後五時酒宴ニ移リ來會者ノ多ク

食ヲ爲サス[illegible]

出席人名

中村克昌　石坂昌孝　村野[illegible]

[illegible]保作藏　小林樟雄　島[illegible]

奈須川光寶

[illegible]尚經　岡野寛　[illegible]

佐藤琢治　新井章吾　西河[illegible]藏　河口善之助

乙秘第五三五號　十月廿六日

十二團体ノ集會

本日午後四時半ヨリ神田錦輝館ニ十二團体員来集セシモノ總員二百六十名一同着席スルヤ稲垣示ヲ會長ニ推シ

紅葉館ニ於テ決議セシ事項ノ実行ヲ期シ尚ホ該事項ヲ大會ニ提出スル爲メ一應總務委員ノ許ニ差出シ若シ容レラレザル場合ハ吾々ヨリ直チニ大會ニ提出スベシトノ要旨ヲ決議シ午後五時酒宴ニ移リ来會者ノ多クハ酒食ヲ爲サス続々退散セリ

出席人名

村野常右エ門　石坂昌孝　中村克昌　大久保作藏

高橋庄之助　小林樟雄　奈須川光宝　名須川良平

星松三郎　岡野寛　門馬尚経　青木正太郎

河口善之助　西河爲藏　新井章吾　佐藤琢治

石黒涵一郎　稲垣示　肥塚龍　寺田彦太郎
高橋安尓　新井啓一郎　利光鶴松　小畑岩次郎
改野耕三　岩崎万次郎　齋藤良輔　鹿島秀麿
菅原傳　藤沢幾之進　福田又一
以下多数ニ付略ス

乙秘第五三六號　十月廿六日

政友倶樂部ノ會合

本日午前九時半頃ヨリ京橋新肴町開花亭ニ於テ政友倶樂部員加治壽衛吉、瀧澤助三郎、山口弾正、小平鑄、渡邊小太郎、山田某、藤田某、外五名集會シ時事問題ニ付協議セシカ財政問題即チ地租増徴外債募集其他諸税ノ増徴及ヒ外交ノ方針等ニ就テハ當倶樂部ト意向ヲ同フスル各團体ト同一ノ歩武ヲ採ルベシ又タ文官任用令ニ付テハ論議百出全廢ヲ唱フルアリ或ハ現行令ヲ存シ之レニ府県會議員其他特種ノモノニ特權ヲ附與スベシトノ二説ナリシカ結局各團体ノ意嚮ニ任スベシト歸着シ次ニ尾崎文相問題ニ移リ議論喧囂ヲ極メシカ今日ノ場合ハ憲政黨ヨリ後任者ヲ出サヽルベカラス決シテ藩閥臭味ノ掌中ニ握ラシムルカ如キハ断然排斥スベシト決シ正午十二時一同退散セリ

麹町永田町
大隈重信殿

東京市芝公園
憲政黨本部内

九月十四日
同志倶楽部

緘

乙
本
懇
ノ
大

代議士ノ
リテ酒宴
ス是吾々
ニ世間開
スル八実
ノ政務擧
閣ヲ責ム
ハ行政整理
於テハ飽マテ

ナリ財政整理ナリ現内閣ガ悠々トシテ決セザルニ於テハ飽マテ
之ヲ注意督励シ益其運命ヲシテ永カラシメンコトヲ欲ス自今党
中各團体ノ名称ヲ廃シ單ニ憲政党支部ナル名称ノ許ニ憲政党ノ

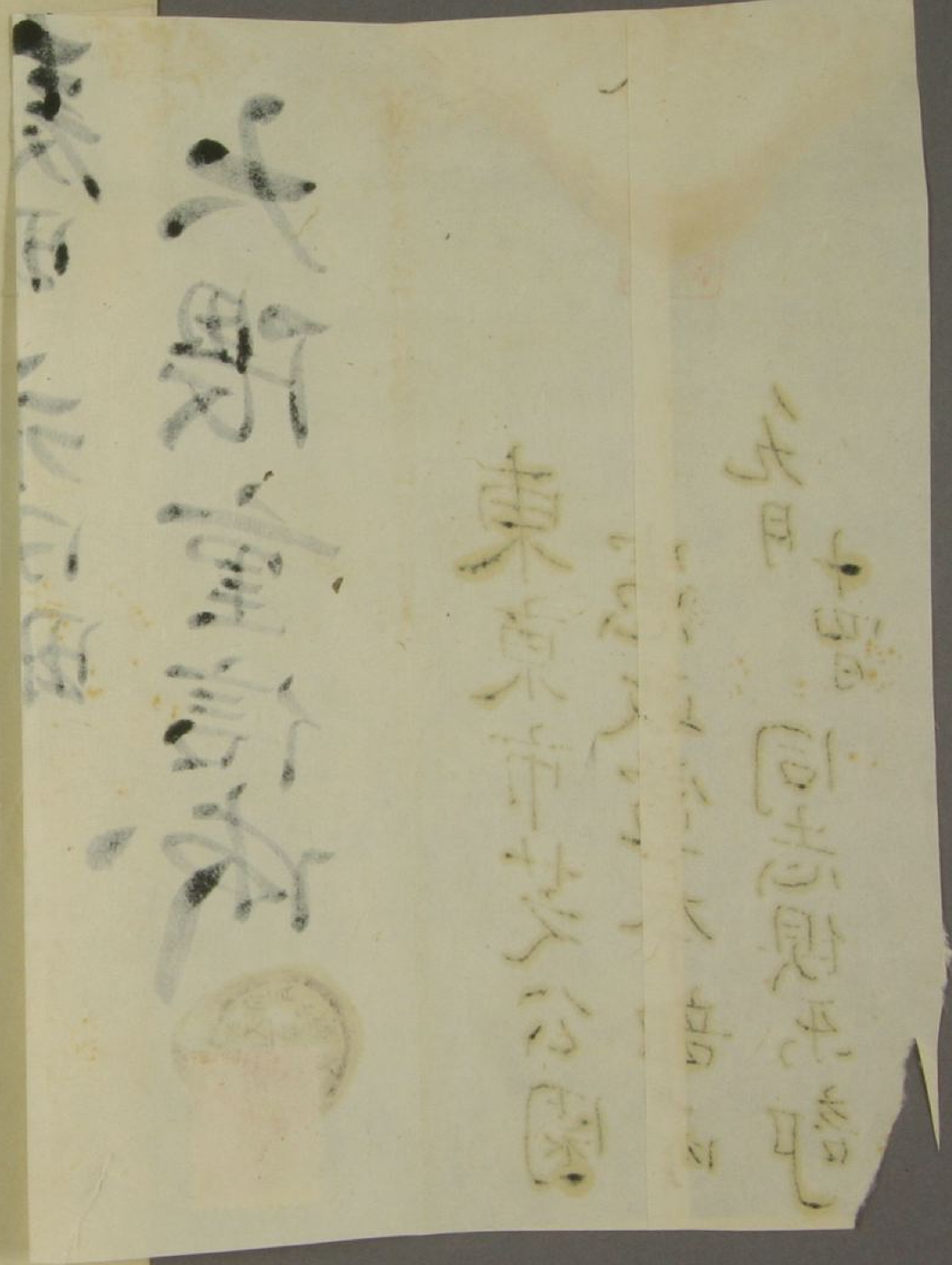
乙秘第四一四号　　九月十五日

紅葉館ノ懇親會

本日午後三時ヨリ芝紅葉館ニ開キタル憲政党各支部員及代議士ノ懇親會ハ出席者八十二名ニシテ席上大井憲太郎ノ演説アリテ酒宴ノ後八時頃散會セリ

大井憲太郎ノ演説大要

今ヤ自進両党合同シテ憲政党ノ組織成リ政党内閣成立ス是吾々カ多年希望シタル目的ヲ達シタルモノト云フベシ然ルニ世間關東人士中或ハ隠微ノ業ヲ画シツヽアルモノヽ如ク傳説スルハ実ニ吾関東ノ為メニ慨嘆ニ堪ヘザル所ナリ且現内閣百般ノ政務擧ラザルハ他ニ原因アルナリ然ルニ此ヲ以テ直チニ現内閣ヲ責ムルハ最モ関東男子ノ為メニ採ラザル所ナリ故ニ吾々ハ行政整理ナリ財政整理ナリ現内閣ガ悠々トシテ決セザルニ於テハ飽マデ之ヲ注意督励シ益其運命ヲシテ永カラシメンコトヲ欲ス自今党中各團体ノ名称ヲ廃シ單ニ憲政党支部ナル名称ノ許ニ憲政党ノ



為メニ協力一致ノ運動ヲナシ益根底ノ強固ヲ計ラン云々
又本日ハ東京支部ノ發起ニ成リタル懇親會ト言フニ過キサレハ別
ニ決議スルヿモナキガ今後或ハ必要ニ應シ各支部委員ノ上京ヲ促
スヿトモアラン
又憲政党大會モ来月開會スルニ至ランガ其際ハ評議委員ノ選挙
モアレハ委員諸君ハ挙テ上京アリタシ

大隈総理大臣殿

必親展

秘 号 月五日
第二區（京橋）前候補者
憲政党ハ山田中嶋ノ競争ニ対シ山田ヲ候補トスルヲ至当トストノ裁
決ヲ為シタルモヨリ中嶋派ノ志者ハ之ヲ公平ノ裁決ナラストシ
シ強テ中嶋ヲ起タシメントシタルモ中嶋カ之ヲ肯セサルヨリ昨日来
中村正直酒井恭ヲ以テ交渉委員トシ中沢芳吉ニ候補者タルヘキコトニ
加商セシメツヽアリシ折柄京橋公同会（元茶話会ニシテ実業家ノ一團）ノ
田中市郎右エ門土田政次郎三枝與三郎ヨリモ切ニ勧誘アリシヨリ男
諾シ本日午前ヨリ其件ニ付京橋銀行ニ集會シ其結果本夜ノ公
於テ発表明日ヨリ[illegible]権者ハ席
之ニ応スヘ[illegible]

警視總監西山志澄

乙秘第三三〇号　八月五日

府下第三区（京橋）ノ新候補者

憲政党ハ山田中嶋ノ競争ニ対シ山田ヲ候補トスルヲ至当トストノ裁決ヲ為シタルヨリ中嶋派ニ属スル有志者ハ之ヲ公平ノ裁決ナラストシ強テ中嶋ヲ起タシメントシタルモ中嶋カ之ヲ肯セサルヨリ昨日来中村正直酒井恭ヲ以テ交渉委員トシ中澤彦吉ニ候補者タルヘキヿヲ協商セシメツヽアリシ折柄京橋公同会（元茶話会ニシテ実業家ノ一団）ノ喜谷市郎右エ門土田政次郎三枝典三郎ヨリモ切ニ勧誘アリシヨリ黙ホ兼諾シ本日午前ヨリ其件ニ付京橋銀行ニ集会シ其結果ヲ本夜ノ公同会ニ於テ発表明日ヨリ部署ヲ定メテ運動ニ着手（スル筈ナリ）当区ノ有権者ハ席巻シテ之ニ応スヘシトノコトナリ

大隈総理大臣殿

必親展

警視総監西山志澄

乙秘第三八六号　九月一日

國民協會ト東京通信社

國民協会ハ山田司法次官カ選挙干渉事件ニ引續キ尾崎文部大臣ノ共和政体演説ニ付遽カニ活気ヲ露ハシ来リ日々在京会員ハ其事務所ニ集リ鳩首シテ元田肇ノ名目ヲ以テ東京通信社ヲ買受ケ之ヲ機関トシテ大ニ其意見ヲ江湖ニ發表セントシ目下計画シツヽアリ

地秘

廿九年十一月十六日接受機密電報

茨城縣

一縣下久慈郡太田町ニ開キタル進歩党政談会ハ昨午后七時無事閉会セリ

十一月十五日前十時二十三分発

埼玉縣

一本日午后一時三十分ヨリ演説会開会井上識一郎開会ノ趣旨ヲ述ヘ波多野傳三郎田中正造高田早苗鈴木重遠島田三郎四時三十分迄ニ無事演了ス波多野ノ演説中自由派ノ壮士騒擾ヲ極メタルニ依リ七名ニ退場ヲ命シタルニ依リ其後無事今懇親会開会中

兵士ハ終ニ列車ニテ帰京ノ筈　十一月十五日午后六時七分発

地秘

本紙ニ列挙スル各原書ハ警保局ニ保存シアルヲ以テ特ニ其閲覧ヲ要セラルヽ氏ハ同局長ヘ御照会アリタシ

廿九年十一月十六日接受機密報告抜萃

廣島縣

一自由党関西会ヲ当地ニ開クコトハ小田貫一串本康三等ノ発意セシ処ナルカ党勢不振ノ土地柄ナルト党員不熱心ナルトニテ斡旋ノ労ヲ執ルモノナク頗ル冷淡ニ打過キタル処他府縣ノ党員ヨリ開会期日ヲ問合セ来リ本部ヨリモ速ニ開会スヘキ旨ヲ促シ来リタルニ付不進ミナカラ準備ニ着手シ小田外三名集会シ本月二十一日発起人総会ヲ開クコト同二十二日関西二府十三縣ノ総会及懇親会ヲ開クコト板垣伯及林石塚片岡等ノ出席ヲ本部ニ要求スルコト等ヲ決

定シタリト云フ

岩手縣

一曩ニ進歩党大会ニ臨席ノ為メ上京セシ同党員小原直治外二名ハ去ル九月江刺郡岩谷堂町ニ報告会ヲ開会スルモノ九名報告ハ要ハ岩谷堂町ニ同党支部設置ノ件議決定セシコト次期衆議院議員選挙ニハ工藤行幹ヲ当県第四區ヨリ選出スルコト尾崎行雄当地ヘ遊説ニ来ルコト等ナリシ

香川縣

一自由党香川支部ニ於テハ来ル十七日秋季総会ヲ開キ宣言書ノ件対政府策ノ件租税ノ件紙幣裁行ニ関スル件選挙區域ノ件当支部擴張ノ件ヲ議シ翌十八日高松市片原町ニ政談演説会ヲ開ク趣ナリ

兵庫縣

一臨時縣会ニ於テ本縣会ヲ郡部市部ニ區分スルコトニ議決シタル結果神戸市選出縣会議員五名ノ増員ニ対シ其選挙ヲ行ヒタルニ進歩派四人自由派一人当選セリ

鳥取縣

一氣高郡勝谷村譲傳寺住職須和文孝ハ耶蘇演説会ニ於テ取締ノ為メ臨場シタル巡査ニ対シ侮辱シタル廉ヲ以テ曩ニ告發セシ処今般証憑不充分ニ依リ無罪トナレリ

長崎縣

一本月二日長崎市居留地松枝町洋酒店ニ於テ英佛両国ノ

水兵飲酒シ互ニ放歌舞踏ヲ為シ居リシカ如何ナル事ヨリカ争闘ヲ始メ近隣ニ居合セタル両國ノ水兵集合シ来リタルヲ以テ巡査ニ於テ漸ク之ヲ鎮撫セリ同三日佛國水兵五六名英國水兵二三十名ノ為メ非常ノ暴行ヲ受ケ同四日ハ両國水兵各自ニ棍棒ヲ携帯シ街路ヲ彷徨セシモ英國水兵遁避セシ為メ無事ナリシニ同六日ニ至リ佛國水兵ハ空瓶数個ヲ携帯シ英國水兵ニ投付ルヲ以テ梅香崎警察署長ハ巡査数名ト共ニ出張シ英國水兵ニ注意ヲ与ヘテ之ヲ避ケシメ尚両國領事ニ急報シタルニ佛國軍艦ヨリハ士官上陸シテ彼等一同ヲ引連レ帰艦セシ為メ漸ク静穏ニ帰セシモ英國士官ハ大ニ憤激シ居ルヲ以テ他日如何ナル事件ヲ惹起スルモ難計ニ付梅香崎署長ハ英國軍艦ヲ訪ヒタルニ同艦長ト佛國軍艦乗組司令長官ト協議ノ結果両國水兵隔日上陸ト定メタルヲ以テ最早争闘ヲ惹起スルコトナカルヘシ本件ニ付英國水兵ハ負傷四名ニシテ内一名稍々重傷ナリ佛國水兵ハ二名軽傷ヲ負ヒ墨西哥軍艦水兵一名重傷ヲ負ヒタリ

乙秘第四三〇號　九月廿二日

憲政党青年集會

憲政党ノ青年組ハ昨日午後三時ヨリ本部ニ集会シ西内石基ヲ仮リニ座長トナシ青年会組織ニ就キ会議ヲ开キシニ是迄青年ハ自進両党ノ為メニ尽力シタルモ我内閣トナリ先輩ノミ恩澤ニ浴シ我々青年ハ度外視セラレ居ルヨリ茲ニ青年團体ヲ作リ大ニ先輩ニ迫ル所アラント云フニアリテ異議ナク青年会ヲ設立スルヿニ決シ夫ヨリ規約ニ就キ原十目吉説明者トナリ多少ノ修正ヲナシ次ニ幹事并ニ委員ノ選挙ヲナシタルガ幹事ニハ原十目吉、河村益吉、長谷川逸刀、松村猪三郎、須佐嘉橘委員ニハ楊田繁馬、山田保水井山惟誠、青柳金太郎、田中一穂、志賀直、北村熊三郎、渕岡駒吉、後藤傑太郎、西内石基ヲ選挙シ幹事委員ハ直ニ本部ニ龍野武市両幹事ヲ訪ヒ面会ノ上青年会ヲ本部内ニ置クヿ及他ニ二三要求ヲナシ午後六時頃散会シタルガ猶幹事委員等ハ本日總務委員ヲ訪問シ会ノ意見ヲ建議スル筈ナリト云フ

出席人名

原十目吉
長谷川逸刀
須佐嘉橘
北村熊三郎
後藤儀太郎

揚田繁馬
井山惟誠
田中一穂
濱田辰之助
小野葉久

河村盃吉
松村猪三郎
志賀亘
渕岡駒吉
吉澤栞

山田保水
青柳金太郎
西内正是
遠近襄郎

外弐名

乙秘第四六九號　　十月九日

国民協会院外者ノ運動ニ付テ（乙秘第四六九號参照）

去八日芝大芝館ニ開クベシトノ計畫アリシ国民協会院外者ノ集会ハ愈明十日午后四時ヨリ京橋出雲町書肆川樓ニテ催スヿニ決定シ酒井友次郎栗岩武一郎ノ名ヲ以テ夫々通知状ヲ発シタリ当日ハ金子堅太郎モ出席シ将来ノ方針ニ付一場ノ談話ヲ為スベキ約アリトノヿナリ

大隈總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

乙秘第三八三號　　八月三十日

文相演説ニ對スル教育會

教育會ハ過日尾崎文相カナシタル演説ニ関シ種々不平者モアリテ其處置ニ付テハ調査中ニアリタルガ新聞紙上ニ顕ハレタル談演説ノ記事ハ實ニ只其表面上ノモノ而已ニ過キスシテ當日ノ速記ハ或ル筋ニテ速記者ヨリ買收シタル証跡モアリ且又輿論喚起ノ今日ニ際シ此侭ニ默過スルハ會ノ責任ニモ及ホス次第ナレハトテ昨日常議員會ヲ開キ尾崎文相ニ對シ談演説ハ全ク同相ノ失体ナルヲ以テ之レカ取消ト謝罪トヲ勸告スル事ヲ決議シ萬一尾崎文相ニシテ之ヲ容レサレハ宜シク全國同志者ニ檄シテ運動スルコトニ確定シタリト云フ

[illegible]

大隈内閣總理大臣殿

急

必親展

警保局長小倉久

内務省用

秘

當選報告 第十回

山形縣

第一区（三人）

票数	党派	氏名
一、五三八	憲	△佐藤里治
一、四五三	憲 元白	戸狩権之助
次点 六一〇	憲 元白	松浦吉三郎
四三六	無	佐竹正詮

山口縣

第一区（二人）

票数	党派	氏名
一、九四四	国	河北勘七
一、九四一	無	△古屋新作
次点 二六八	憲 元白	縄田藤作
二五六	無	高洲素作

奈良縣

第二区（二人）	三、三一三	憲 元自	△瀧口帰一
	三、〇七八	憲 元進	△本間貞
	次点 八一二		桂田理太郎
	五〇一		大神龍

香川縣

第三区	一、一四〇	憲 元進	△宮井茂九郎
	次点 四二	無	松尾章八郎
第四区	五二五	憲 元自	△堀家虎造
	次点 三五一	憲 元自	遠山正和
第五区	九二九	無	塩田忠左ヱ門
	次点 一一五	無	大久保彦三郎

岩手縣

第四区	四一六	憲 元自	下飯坂権三郎
	次点 三三七	憲 元進	猪狩八郎

山形縣

第三区（二人）	三、二七六	憲 元進	秋保親兼
	三、二八〇	憲 元自	阿部孫左ヱ門
	次点 三七四	憲 元進	齋藤良輔
	三二二	憲 元進	本間光義

秘

當選報告 第九回

東京府

第十三区 人二	一、一一三	憲 元自	△	青木正太郎
	一、一八二	仝		村野常右エ門
次点	二六五			比留間邦之助
	五一			中村克昌

静岡縣

第二区	七二七	憲 元自	△	伊達文三
次点	三六			西萱嘉吉
第六区	一六〇九	憲 元進	△	松島廉作
次点	一二三			中村禄郎

第七區 二人

一七五五 憲 元進 大村和吉郎

一七二七 仝 元自 永井嘉六郎

次点 一四六 和田傳太郎

無 依田佐二平

鳥取縣

第二区 一〇八三 憲 元自 △西谷金蔵

次点 四一八 國 若原観瑞

島根縣

第一区 八〇九 憲 元進 星野甚左エ門

次点 六九一 國 宮本彰義

第二区 一〇八五 無 △並河理二郎

次点 六七〇 憲 元自 藤井朝一郎

第四区 四二一 憲 元自 △恒松隆慶

次点 三二九 国 清水文次郎

第五区 九七四 憲 元自 松本正友

次点 五〇 憲 石田古文

岡山縣

第六区 七一五 憲 元自 井手毛三

次点 五一九 憲 元自 有木武雄

石川縣

第一区（二人） 二、三一〇 憲 元自 △田中喜太郎
二、一九一 憲 元自 △赤王亮
次点 七六 吉本栄吉
三四 憲 元自 松田吉三郎

福岡縣

第二区（二人） 三、三六三 憲 元自 △藤金作
三、三五四 憲 元自 △多田作兵工
次点 四二 岡崎三平
一二 谷彦市

熊本縣

第一区（二人） 一、二一三 国 △佐々友房
一、一七八 国 内藤正義
次点 九七六 憲 元自 髙田露
九六五 憲 元自 髙森新

第四区 一、四八九 国 内田雄蔵
次点 八一三 憲 元自 佐藤量三

和歌山縣

第一区（二人） 二、三三七 憲 元進 △濱口吉右エ門
二、三二四 無 関直彦

鹿児島縣

第一区	三三八	憲	△有馬要介
第二区	二九八	憲	△鮫島相政
第三区	四〇九	憲	△長谷場純孝
第四区	一〇六一	憲	和泉邦彦
	次点八三	無	田野熾
第五区	七九二	憲	△有村連
第六区	五九三	憲	佐藤通代
	次点一	憲	杉山賛一
第七区	一一〇	憲	林元俊
	次点六二	憲	焚紀義

秘

警保局印

大隈内閣総理大臣殿

急
親展

警保局長小倉

第四区　五八五　憲　元自　佐藤琢治

秘

當選報告　第十一回

岐阜縣
第七区　六七六　憲　元進　△杉下太郎右衛門

長野縣
第六区　一三八八　憲　元進　△中村弥六
次点　二七　北村英一郎

宮城縣
第三区　一九九三　憲　元自　△菅原傳
次点　五　仝　仝　鎌田三之助
第四区　五八五　憲　元自　佐藤琢治

次点 五八二 無 千葉胤昌

岩手縣

第三区 一、二〇七 憲 元進 △奈須川良平
次点 三八〇 仝 元自 佐藤昌蔵
第四区 四一六 憲 元自 下飯坂権三郎
次点 三三七 仝 元進 猪狩八郎

岡山縣

第一区 二人 二、九七五 憲 元進 △坂本金弥
二七五四 仝 元自 石黒涵一郎
次点 八六四 仝 元進 野崎定次郎
七八 仝 元自 中山寛

埼玉縣ヨリ左ノ通正誤アリ（第八回報告）参照

第二区 二人 三、一一四 粕谷義三
三、〇七二 福田久松
次点 三〇九 片岡勇三郎
二五六 高田早苗
第三区 二人 三、八五〇 新井啓一郎
三、八四七 長瀬清一郎
次点 一三三 大島寛爾

乙秘第五一八號

京橋有志者會合　　十月廿二日

昨廿一日午後六時廿分木挽町一丁目料理店萬安樓ニ京
橋有志者河村武男、山本政太郎、伊藤勘七、上原善兵衛
松本留之助、齊田岩太郎、今井稲四郎、青木秀二郎、酒井泰
池上十兵衛、北山清兵衛、岩井音五郎、星野友七外五名會
合シ杯盤整列ノ上河村武男起テ曰ク
京橋有志會ハ山田司法次官ガ撰挙干渉事件ニ對シ活動
スルタメ組成シタルモノナリ尓来諸君等協力ノ結果遂ニ司
法次官ノ職ヲ罷メシムルニ至レリ然レモ未タ満足スル能ハス益々
其歩ヲ進メ我々ノ目的即チ彼レヲシテ代議士ノ任務ヲ解カシ
ムル事ニ努メザルベカラス其辞職勧告書ハ福地源一郎ニ起
草ヲ請ヒ目下印刷中明日頃ハ出来ノ筈追テ諸君ニ配付セント
欲ス已ニ有力者十名ノ賛成調印ヲ得タリ尚諸君ノ賛同調
印ヲ求メ而シテ過日訪問セシ内務大蔵文部ノ各大臣ヲ除キ

其他ノ諸大臣及憲政党総務委員等ヲ歴訪シ充分意見ヲ陳述シ以テ其貫徹ヲ計ラントス云々

右ニ一同賛意ヲ表シ調印ニ付テノ運動方法ハ各自知合ヒヨリ始メ近傍町内未知ノ人ニ及ボス事ト定メタリ

此ノ運動ニ對スル協議處ハ是マテ開花亭ナリシモ水谷町貸席新春廼屋ニ更メ隔日午後七時ヨリ八時迄ノ間参集スル事ニ決定夫レヨリ酒宴ニ移リ仝十時半頃ヨリ退散シタリ

乙秘第四三六號　九月廿四日

京橋區有志者對山田喜之助運動状況

京橋有志者ガ山田喜之助ニ對スル其後運動ノ模様ヲ聞クニ漸ク議会モ切迫シ来レハ是非共議会以前ニ於テ辞職セシメントシ先ツ其一着手トシテ憲政党ノ各大臣及總務委員其他重ナル者ヲ訪問シ陳情ヲ試ミ果シテ容ルヽ所ナクンバ茲ニ於テ断然辞職勧告書ヲ送ル事ニ内決シ居レリ

一過日山田喜之助ガ各有権者ニ配付セシ東京府第三區選挙報告書ト題スル印刷物ニ對シテ有志者ヨリモ亦一層當時ノ選挙状況ヲ詳記セシ反駁的ノ印刷物ヲ配付スル筈ニテ今起草中ナリ

一有志者ガ演説会ヲ開カントスル事ニ付テハ尚其后適當ノ場所ナキニ困シ居リシガ追テ木挽町歌舞伎座ノ閉場ヲ待チ同場ニ開会スル事ニ決シ居レリ

一一昨廿二日午後五時ヨリ芝紅葉館ニ於テ

中澤彦吉　喜谷市郎右エ門　大住喜右エ門　三枝興三郎

福原有信　今井福四郎　雲良謙太郎　秋田太郎兵エ

中村彌助　伊藤勘七　中澤彦七　河村武男

伊坂半九郎　後藤亮之助

等会合懇親会ヲ開キシガ右ハ中村彌助以下六名ノ出獄慰労会ナリシト聞ク

乙秘第五二五號　　十月廿四日

憲政党員ノ集會

本日午前十一時頃ヨリ左記ノ人名紅葉館ニ集会ス席上大井憲太郎ハ起テ本日茲ニ諸君ト会合シタル旨趣ハ今更述フルノ必要ナキモ我党組織以来種々ノ妨害中傷出テ世間或ハ之レカ為メニ迷ハサレントスルノ傾キアルガ如シ然レ𪜈我党ハ決シテ之レカ為メニ破壊セラルヽ如キノ軟弱ナルモノニアラズ然ルニ尚ホ二三ノ野心家アリテ頻リニ中傷妨害ヲ為シツヽアリ実ニ卑劣ノ極ト言フベシ故ニ我々同志者ハ将来益々一致ノ態度ヲ採リ他ノ中傷妨害ヲ排除シ以テ我党ノ鞏固ヲ謀リ且ツ飽迄現内閣ヲ維持セザルベカラズ此ノ事ハ最モ今日ノ急務ナルヲ以テ茲ニ之ヲ決議シ置カンコトヲ望ム云々ト述ベ次キニ島田三郎ハ我党組織以来種々ナル妨害アルハ事創業ニ属スルヲ以テ素ヨリ免カル能ハザルノ数ナリト雖𪜈今日ノ如ク徒ニ些少ノ感情ニ制セラレ互ニ妨害ヲ為シ中傷ヲ施スト云フニ至ッテハ実ニ

驚カザルヲ得ズ然レ氏我々ハ斯ノ如キ困難ニ遇フベキヿハ最
初ヨリ覚悟シ居ラザルベカラザルモノナルヲ以テ之レカ為メ
今更動カサル、カ如キハ男児ノ行為トシテ最モ恥ヅベキノヿ
ナリ故ニ只今大井君ノ云ハレタルガ如ク我々ハ益々協同一致
シテ萬難ヲ排シ以テ我党ノ鞏固ヲ謀ルト共ニ一方ニハ内閣ノ
諸君ヲシテ速カニ政党内閣ノ実ヲ挙ケシメンヿヲ期セザルベ
カラズ故ニ将来万一ニモ我党ノ進路ヲ阻害スルモノアラバ假
借ナク断然タル処置ニ由テ苟モ小事ニ汲々シ為メニ大事ヲ誤
ルカ如キヿナカラシメザルベカラズ幸ニ中正倶楽部ハ我党ノ
中堅トナリ必生ノ力ヲ以テ相互ノ関ヲ調和シ以テ我党ノ鞏固
ヲ図ルト同ク実ニ喜ブベキノ事ナリ諸君モ亦我党ノ為メ益々
進ンテ努力セラレンヿヲ望ム云々ト演述シ夫レヨリ酒宴ニ移
リ午后四時頃一同散会セリ

乙秘第五三八號 十月廿七日

國民協會ノ大會

國民協會ノ大會ハ来月五日ト内定スルモ其決定ハ今廿七日同事務所ニ在京者ノ集會ヲ催シ決定スル筈

是レハ國民協會院外者カ先達トナリ一團体ヲ組立テントシタル集會ニハアラズ單純ナル國民協會ノ大會ナリト云フ

乙秘第五四一號　十月廿七日

憲政党東京支部大会

本日午後二時神田錦輝館ニ開会會長ニ鳩山和夫ヲ推シ井田忠信開会ノ趣旨ヲ述ベ（東京支部ハ憲政党ノ中心ニシテ全國ノ亀鑑タルベキモノナレバ今後益々吾カ党ノ主義方針ニ基キ憲政ノ美ヲ完フセンコトヲ望ムトノ主旨）円城寺清ハ支部会計ニ關スル報告ヲ爲シ次ニ浅香克孝ハ大會ニ列席スベキ代議員選定ハ之ヲ會長ノ指名ニ任センコトヲ發議シ満場異議ナク之ニ決シ会長ハ江間俊一、大井憲太郎ノ二名ヲ選定セリ　天皇陛下萬歳ヲ三唱シ憲政党東京支部萬歳ヲ唱ヘ終リニ安川繁成ノ音頭ニテ午後二時十五分無事閉会セリ

出席人名

関博直
渡邉小太郎
秋山正作
山崎喜兵衛
高橋義信
堀尾丑松
田中金作
天野弥吾兵衛
佐野瑛
豊田大三郎
木村寅松
浅見小三郎
松見文平
山村梅次郎

多良尾光應
西村裕
川島烈之助
板倉定吉
五味卯三郎
坂井平兵衛
安部十三郎
小野寺大二郎
小島忠治
三木豊
宇田川芳之助
加藤房五郎
山林林太郎
横山甫嘉

円城寺清
関根柳助
豊崎善之助
野村蒋一
福田又一
福田常松
上田省吾
杠陽
山本房吉
黒崎与吉
市原直次
増田岩男
長谷部天夫
原田熊三郎

奥宮健之
磯部武者五郎
山内毅一郎
岩崎亮太郎
小村新次郎
浅野雄明
丸毛恒三
菊池順永
服山裕一
南波登發
三谷専三郎
平井恒之助
一杉平吉
宮本清二郎

村居鐵次郎
黒田敏晰
高橋少太郎
岩崎又吉
岩崎金太郎
藤崎清秋
高川道太郎
山本鹿造
井上貞正
南勇次郎
吉田甚爵
福井手藏
寺田勇吉
不死原平
利光丈平

牧内卯吉
久保通獻
有田義一
貫井治右衛門
田中基臣
田村貞馬
矢島金藏
中島有三郎
洞岡駒吉
鈴木仙藏
山内字吉
菊田勇次郎
鈴木手次郎
鶴田信定
伊藤祐二

相原久七
堀江榮太郎
須佐嘉橘
福室鎮之助
田中為靜
田口淺五郎
奥田一太郎
佐藤寧一
中澤有民
洞鈴吉
矢島七郎兵エ
塚瀬金三郎
高橋相太郎
楠熊二郎
安藤龍吉

名倉甚左衛門
関原伊之助
淺野春太郎
柳啓三郎
野村武之助
波多野勝郎
矢島龍吉
内田榮三
氏家直國
田所岩吉
島村次男
篠爲次郎
亘理善太郎
柏屋治太郎
山際傳兵

松村猪三郎
鈴木繁次
鈴木卯兵エ

竹川藤太郎
篠 廉吉
宮入清改

渡邊厚太郎
高橋鎰吉
小林藤治郎

田村良齊
小松 毅
田村音五郎

謹啓仕候、然ハ

先年新裏北田屋ノ者共

ヨリ以書付ヲ以願出候

及御届候所、和泉殿

御諚熟考之上願済

仕候一通り御座候様

テ日々猶可有之候

右之書付一条ニ

一大事ニテ御座候

ニ御諚ニ付候十五

ヲ相ニ願書[illegible]

以前何事も[illegible]之

[illegible]
テ見ニ猶存寄ニモ有之候得
ナキ之憲法ニ一条ヲ
一大事トシテ思召候
ニ相調ヒニ被為十分
ハ相成候至難ト存候
以テ何卒多少之
又ハ明年相成之節ハ
謁ヲ許サレ候ハヽ
ヲ帯閑シヒ陳述
ハ承知有之事後
封書之事郷
不備以上草々
月廿日
大隈伯爵閣下

大隈伯爵
親展

三田小山町一ノ五
黒沢信一郎

〆